

H27年度文部科学省委託

特別支援教育に関する実践研究充実事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）

ライフキャリアの視点を大切した教育課程の編成 ～地域資源を活用した授業づくりを通して～ (一年次)

平成27年度 研究紀要 第36集



秋田県立横手養護学校

目次

はじめに

校長 五十嵐 昌司

第Ⅰ部 全体研究

- | | |
|--------------|---|
| I 研究概要 | 1 |
| II 研究計画と評価計画 | 5 |

第Ⅱ部 研究の実際

- | | |
|------------------------|----|
| I ライフキャリアの視点を大切にした教育課程 | |
| ・ 主な取組 | 8 |
| ・ 教育課程の評価・改善 | |
| II 地域資源を活用した授業づくり | |
| ・ 主な取組 | 10 |
| ・ 小学部の実践 | 12 |
| ・ 中学部の実践 | 19 |
| ・ 高等部の実践 | 25 |

第Ⅲ部 成果と課題

- | | |
|-----------|----|
| I 成果と課題 | 32 |
| II 研究のまとめ | 33 |

資料

- ・ キャリア教育全体計画
- ・ 授業づくり振り返りシート
- ・ 平成28年度教育課程（案）

あとがき

教頭 阿部 聡

研究同人

はじめに

校長 五十嵐 昌司

本校では、このたび文部科学省より「特別支援教育に関する実践研究充実事業」研究推進校の委託を受け、「ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成 ～地域資源を活用した授業づくりを通して～」を研究主題に、2年計画での研究に着手しております。

今年度はその1年目として、小学部、中学部が生活単元学習、高等部が職業科を研究対象として取り上げ、ライフキャリアの視点による教育課程の見直しと編成、地域資源を活用した授業づくりに取り組みました。

本校ではこれまでも、「研修や研究を深め実践的指導力の向上をめざす」ことを学校経営における基本方針として掲げ、質の高い授業づくりと研究の充実を推進してまいりました。また、「立地条件や地域資源を活用した特色ある教育活動の展開」にも重点を置き、校外の自然環境や地域資源の有効活用を図ってまいりました。こうした実践をベースとして、本研究では授業づくりと連動した教育課程の編成に取り組もうとするものであります。

この研究の柱の一つとして「研究推進を支える研究組織の編成」を掲げ、大曲養護学校と稲川養護学校の御協力により、「県南3校教育課程等協議会」を組織し、協議を重ねることになりました。この協議会や本校で行われる一連の研究会を通じて、教育課程の編成や授業づくりを考える上での幅や奥行きが広がるようにしていきたいものです。また、教員同士の輪の広がりや、地域の特別支援教育の推進につながれば幸いです。

平成27年10月2日には、県内の特別支援学校や地域の小・中学校等から多数の方々をお招きして公開研究会を開催し、これまでの取組の一端を紹介いたしました。参加された皆様からは、1年目の研究及び公開授業について貴重な御意見、御提言をたくさん拝聴することができました。おかげさまで、今後の研究の進むべき方向が大分見えてきたように思います。学びの多い一日となりましたことを、改めてお礼申し上げます。

来年度は本研究のまとめの年であり、今年度得られた成果をベースに、課題について掘り下げながら、授業の質の向上や教育課程の具体的な見直しにつながるような実践を積み重ねていきたいと考えております。今後とも、御指導御鞭撻（べんたつ）のほどをお願い申し上げます。

研究を進めるに当たり、その方向付けや計画立案、具体的な授業づくりに関する助言など、様々な機会に御指導賜りました秋田県教育庁特別支援教育課の先生方をはじめ、授業研究会や研修会に参加いただいた多くの先生方に深く感謝申し上げます。

第 I 部 全体研究

I 研究概要

1 研究主題

ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成
～地域資源を活用した授業づくりを通して～
(一年次)

2 主題の設定理由

秋田県立横手養護学校（以下、本校）は昭和54年に開校し、平成8年には高等部を設置している。現在小学部22名、中学部25名、高等部49名の計96名の児童生徒が在籍しており、その大半が横手市内から通学している。近年、本校では在籍する児童生徒の障害等の重度・重複化、多様化がみられる。小学部においては、医療的ケアを要したり、肢体不自由を併せ有したりと、体調管理を含め個別の配慮が必要な児童が多く在籍している。中学部・高等部においては、小・中学校の特別支援学級や通常の学級から進学や転学してくる生徒が増加傾向にある。進学等してくる生徒においては、障害特性や過去の経験等から社会性や主体性、自己肯定感が極端に低い状況もみられる。このような児童生徒の実態を踏まえると、社会参加の形（進路選択）は多岐にわたり、一人一人の社会的自立に向け、本人主体の指導・支援をますます充実させていく必要がある。

本校では、昨年度から一人一人のキャリア発達を意識した授業づくりを積み重ねてきた。その結果、児童生徒の変容や教師の意識の変化など、一定の成果を挙げることができた。一方で、学部間の系統性のある指導内容の検討と実践、卒業後の生活に向け、職業的自立より広義な社会的自立の視点での授業づくりの必要性が挙げられた。これは、卒業生に対する卒業後支援の実施状況からも同様のことが言え、生活の基盤となる社会的自立を意識した指導の重要性が確認されている。つまり、地域の中で生活するための基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、自分の役割を果たしながらよりよく生きようとする意欲や態度を喚起していくことが大切と言える。

本校の教育活動の中には、居住地校交流、学校間交流、地域の人材や施設の活用や地域の祭りへの参加など、地域に根付いた活動が多い。このような地域での活動についてキャリア教育の視点から今一度教師が活動の意義を確認し、児童生徒が将来地域で生活し続けることを意識した指導内容を検討し、実践する必要があると考える。

このことから、児童生徒の地域資源（人、社会、文化、自然等）との関わりを意識した学習の中で、自分の役割を果たし、周囲に認められたり、そのことで自分らしさに気付いたり、自分のなりたい姿に気づき、その実現に向け活動したりする経験を積み重ねることは、将来的に地域で社会的自立を果たす基盤となると考える。以上のことにより、本研究主題を設定した。

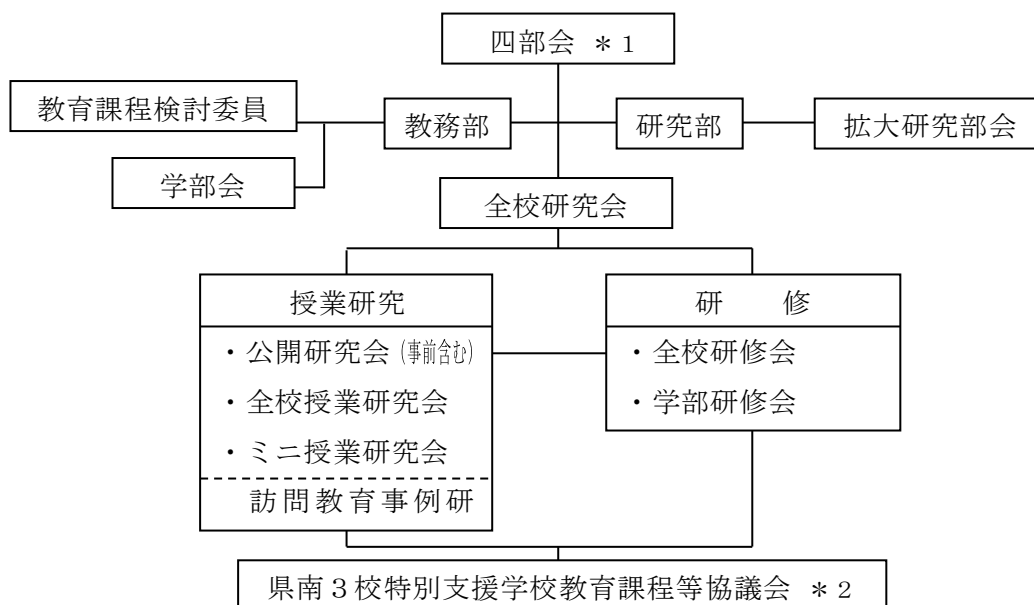
ライフキャリアの定義と視点

定義：生涯にわたり、地域で役割を果たしながら自分らしく生き、自己実現を果たそうとする生き方
視点：「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」

3 研究仮説

従来の教育課程をライフキャリアの視点で捉え直し、一人一人のキャリア発達を意識した教育課程を編成する。これに基づき、地域資源を活用しながら児童生徒が自分の役割や自分らしさに気づき、自分のなりたい姿に向かって活動するための授業実践を重ねる。このことで、社会的自立につながる力が育っていくだろう。

4 研究組織



*1 校長、教頭、各学部主事等で構成し、教育計画等を協議する会（週1回開催）。

*2 大曲養護学校（教育専門監、教務主任、研究主任）、稲川養護学校（教務主任、研究主任）、本校（教育専門監、教務主任、教育課程検討委員会チーフ、研究主任）で構成し、研究推進や教育課程について協議する会。これを基に授業研究会等の相互参加の調整を行う（以下、県南3校教育課程等協議会）。

5 研究内容

- (1) ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成
- (2) 地域資源を活用した授業づくり

6 研究方法（一年次）

- (1) ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	ライフキャリアの定義付けの共通理解 ・ライフキャリアの定義付けや各学部における育てたい力の確認を行う。	全校研究会①、②：4月 学部研究会：5月
②	平成27年度キャリア教育全体計画の作成 ・平成26年度に作成したキャリア教育全体計画を基に、ライフキャリアの視点により見直しを図る。	研究部、教務部：7月
③	教育課程の評価と改善 ・教育課程の編成、実施、評価、改善に係わる日程及び評価者、評価の視点を決める。	教務部、研究部：4月

(2) 地域資源を活用した授業づくり

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	<p>学校教育目標等、学部経営目標等、児童生徒の育てたい力の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標、教育プランと、それに基づいた学部経営目標、重点について、確認する。 ・個別の指導計画を基にし、児童生徒一人一人の育てたい力を検討・確認する。 	<p>全校研究会①、②：4月 学部研究会：5月</p>
②	<p>研究主題に基づいた学部のテーマの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題とキャリア教育の重点、学部の児童生徒の実態から、今年度の学部テーマを決める。 	<p>学部研究会：5月</p>
③	<p>中心となる単元と他の指導の形態の関連性が見える年間指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や学習グループにおいて、1年間ないしは、学期において中心となる単元を設定し、その単元と他の指導の形態との関連性が見える年間指導計画を作成する。 	<p>教務部、研究部 作成：6月 評価、改善：7月、12月</p>
④	<p>地域資源の活用を意識した単元（授業）づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部・中学部：生活単元学習、高等部：職業科に焦点をあて、学部で設定したテーマに向けた教師の指導・支援と児童生徒の変容との関係を整理する。 ・単元（授業）づくりに際しては、横養スタンダード（*3）、平成27年度学校教育の指針を基盤としながら、以下の3点を大切にす <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や関連、自分の役割が理解できるように工夫する </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分らしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や周りを認める、互いに認められる機会を設定する </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自己実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人、複数で考える機会、考えを表出する機会を保障する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に地域資源の活用や他の指導との関連、横養スタンダードに沿った授業づくりの観点について、授業者間で評価する。 	<p>全校授業研究会①：6月 全校授業研究会②：12月 全校授業研究会③：12月 公開研究会事前研究会：9月 公開研究会：10月 ミニ授業研究会（学習グループ各2回）：6～12月</p>

*3：地域で役割を果たしながら自分らしく生き、自己実現を果たそうとする人を育てることを目的とした授業づくりを全職員で行っていくために、本校が授業づくりにおいて大事にしたい点やチームによる授業づくりを進めるためのヒントを記した冊子。

7 研究方法（二年次）

（1）ライフキャリアの視点を大切にされた教育課程の編成

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	学部間の系統性のある指導内容の実践 ・キャリア教育全体計画を基に、授業実践に関する学部間での情報共有や学部を超えた実践の推進を図る。	教育課程検討委員会： 4月、8月、12月、2月 学部会：毎月1回
②	教育課程の定期的な評価と改善 ・ライフキャリアの視点「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」により定期的に評価し、改善を行う。	学部会： 4月、7月、12月、2月 教育課程検討委員会： 4月、8月、1月、3月

（2）地域資源を活用した授業づくり

	実施事項及び内容	実施担当等：時期
①	学校教育目標等、学部経営目標等、児童生徒の育てたい力の確認 ・学校教育目標、教育プランと、それに基づいた学部経営目標、重点について、確認する。 ・個別の指導計画を基にし、児童生徒一人一人の育てたい力を確認する。	全校研究会①、②：4月 学部研究会：5月
②	単元構想会の実施 ・授業者以外を交えた単元構想会を行い、指導目標や指導内容の妥当性を高める。 ・研究対象となる単元と関連（目標、指導内容、方法等）のある単元を明確にする。 ・地域資源を活用する学習に関して指導目標や指導内容、学習内容を明確にする。	教務部、研究部、学習担当：5月（年間計画作成時、適宜（研究授業時）、評価、改善：7月、12月
③	定期的な授業評価の実施 ・授業づくり振り返りシートを用いて授業者の自己評価を行う。	研究部、学習担当：6月、8月、10月
④	学びの積み上げの視覚化 ・全校でキャリアノート（本校版）を活用した授業づくりを行う。	進路指導部 活用：随時 評価・改善：7月

II 研究計画と評価計画

1 研究計画（一年次）

時期	主な研究会・会議等	主な実施内容
4月	・拡大研究部会① (研究校推進校打合せと兼ねる)	研究の方向性検討
	・教育課程検討委員会①	教育課程改善案の確認
	・全校研究会①	研究概要の確認
	・全校研究会②	研究推進の共通理解
5月	・県南3校教育課程等協議会①	研究推進に関する意見交換
6月	・ミニ授業研究会(～12月)	各学習グループの授業研究
7月	・全校授業研究会①(小学部授業提示)	授業研究と学部研究推進状況の報告
	・拡大研究部会②	公開研究会に向けた協議
	・教育課程検討委員会②	1学期の評価及び改善案検討
	・研修会①	講演(日本理化学工業株式会社社長大山氏)
8月	・県南3校教育課程等協議会②	1学期の評価及び改善案に関する意見交換
	・全校研究会③	公開研究会概要確認
9月	・公開研究会事前研究会	公開研究会に向けた授業研究
10月	・公開研究会	授業提示、教育課程に関する協議
12月	・全校授業研究会②(中学部授業提示)	授業研究と学部研究推進状況の報告、研究の成果と今後の課題に関する協議
	・全校授業研究会③(高等部授業提示)	
	・教育課程検討委員会③	2学期の評価及び改善案検討、次年度教育課程案の検討
1月	・研修会②	講演(秋田県総合教育センターS A江橋氏)
	・県南3校教育課程等協議会③	2学期の評価及び改善案、次年度の教育課程に関する意見交換
2月	・教育研究発表会	総合教育センターでの情報発信
	・全校研究会④	研究一年次の成果・課題の確認
3月	・全校研究会⑤	次年度研究推進の方向性の協議
	・研修報告会	先進校視察等の情報共有

2 研究計画（二年次）

時期	主な研究会・会議等	主な実施内容
4月	・拡大研究部会①	研究の方向性の確認
	・教育課程検討委員会①	新教育課程案の確認
	・全校研究会①、②	研究概要の確認、各学部研究の共通理解
5月	・県南3校教育課程等協議会①	研究推進に関する意見交換
	・教育課程検討委員会②	教育課程の実施事項の確認
6月	・ミニ授業研究会①、②	授業提示と授業協議
7月	・拡大研究部会②	公開研究会に向けた協議
8月	・教育課程検討委員会③	1学期の教育課程の評価と改善案検討
	・県南3校教育課程等協議会②	1学期の評価及び改善案に関する意見交換
	・全校研究会③	研究の推進状況と公開研究会概要確認

9月	・教育課程検討委員会④	公開研究会での提案事項検討
	・学部授業研究会	授業提示と授業研究
11月	・公開研究会事前研究会	公開研究会に向けた授業研究
	・公開研究会	授業提示、教育課程に関する協議
	・教育課程検討委員会⑤	次年度の教育課程の検討1
12月	・拡大研究部会③	研究のまとめの方向性確認
	・教育課程検討委員会⑥	2学期の教育課程の評価と改善案検討
1月	・県南3校教育課程等協議会③	2学期の評価及び改善案、次年度の教育課程に関する意見交換
	・教育課程検討委員会⑦	次年度教育課程案の検討2
2月	・教育研究発表会	総合教育センターでの情報発信
	・全校研究会④	2年間のまとめの共通理解
3月	・全校研究会⑤	次年度研究推進の方向性協議
	・教育課程検討委員会⑧	次年度教育課程案の検討3

3 評価計画（一年次）

時期	主な研究会・会議等（実施内容）	
5月	・県南3校教育課程等協議会①（教育課程、研究説明と評価依頼）	
6月	・学校評議員会①（事業説明と評価依頼）	
7月	・全校授業研究会①（授業づくり及び教育課程編成に関する評価）	
	・学部会（1学期の教育課程実施に関する評価）	
8月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り）	
	・教育課程検討委員会②（1学期の教育課程実施に関する評価と2学期の改善案検討）	
	・県南3校教育課程等協議会②（教育課程検討委員会②の内容を踏まえた意見交換）	
9月	・公開研究会事前研究会（授業づくりの評価）	
10月	・公開研究会（教育課程の編成及び授業づくり、研究の評価）	
12月	・全校授業研究会②（授業づくり及び研究に関する評価）	
	・学部会（2学期の教育課程実施に関する評価）	
	・教育課程検討委員会③（2学期の教育課程実施に関する評価と3学期の改善案、次年度教育課程案検討）	
1月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り）	
	・県南3校教育課程等協議会③（教育課程検討委員会③の内容を踏まえた意見交換）	
3月	・学部会（3学期の教育課程実施に関する評価）	
	・学校評議員会②（研究推進への評価）	
定期	・全職員による授業づくり振り返りシート（単元の評価と次単元等への改善の方向性の検討）	
	・全職員による研究推進アンケート（研究の推進状況や成果、課題に関する意見収集）	

4 評価計画（二年次）

時期	主な研究会・会議等（実施内容）
4月	・教育課程検討委員会①（前年度教育課程評価の確認）
5月	・県南3校教育課程等協議会①（教育課程、研究説明と評価依頼） ・学校評議員会①（研究の経過説明と評価依頼）
6月	・ミニ授業研究会①、②（授業づくりの評価）
7月	・学部会（1学期の教育課程実施に関する評価）
8月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り） ・教育課程検討委員会②（学期の教育課程実施に関する評価と2学期の改善案検討） ・県南3校教育課程等協議会②（教育課程検討委員会②の内容を踏まえた意見交換）
9月	・学部授業研究会（授業づくりの評価）
11月	・公開研究会事前研究会（授業づくりの評価） ・公開研究会（教育課程の編成及び授業づくり、研究の評価）
12月	・学部会（2学期の教育課程実施に関する評価）
1月	・個別面談（保護者からの授業及び児童生徒の変容に対する評価の聞き取り） ・教育課程検討委員会③（2学期の教育課程実施に関する評価と3学期の改善案、次年度の教育課程案の検討） ・県南3校教育課程等協議会③（教育課程検討委員会③の内容を踏まえた意見交換）
3月	・学部会（3学期の教育課程実施に関する評価） ・学校評議員会②（研究推進への評価）
定期	・全職員による授業づくり振り返りシート（単元の評価と次単元等への改善の方向性の検討） ・全職員による研究推進アンケート（研究の推進状況や成果、課題に関する意見収集）

第Ⅱ部 研究の実際

I ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成

1 主な取組

(1) ライフキャリアの定義付けと共通理解

- 本研究を進めるにあたり、ライフキャリアを「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年、中央教育審議会）でのキャリア教育及びキャリア発達に関する定義、ドナルド・スーパーの「ライフキャリアの虹」、「平成27年度学校教育の指針」における本県の目指すキャリア教育、そして、本校の学校教育目標を基に、「生涯にわたり、地域で役割を果たしながら自分らしく生き、自己実現を果たそうとする生き方」と定義付けた。また、ライフキャリアの視点を「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」とし、全職員で共通理解を図った。

(2) 平成27年度キャリア教育全体計画の作成（資料1）

- 平成26年度キャリア教育全体計画の見直しに際して、以下の事柄に留意した。（図1）
 - ◆系統的な指導内容に向けて、発達の段階を意識した学部経営目標となっていること。
 - ◆各学部におけるキャリア教育の重点とライフキャリアの視点が一致していること。



図1（キャリア教育全体計画より抜粋）

(3) 教育課程の評価と改善

- 教育課程の評価、改善の日程を学期終了後とし、評価者を以下（表1）のように定めた。また、評価の視点として「学部経営目標の具現化」「ライフキャリア」を挙げ、学部間で統一した評価項目とした。評価、改善の内容は、学部及び学校職員で共有し、次学期の実施に反映できるように周知した。

表1 教育課程の評価者と評価時期一覧

学校主体	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程アンケート 対象：全職員【時期：7月、12月、2月】 ・学部会【時期：7月、12月、2月】 ・教育課程検討委員会【時期：7月、12月、3月】
第三者等	<ul style="list-style-type: none"> ・県南3校教育課程等協議会【時期：5月、8月、1月】 ・個別面談（保護者）【時期：8月、1月】 ・学校評議員等【時期：3月】

2 教育課程の評価・改善

(1) 1学期の実践を基にした評価と2学期に向けての改善案

- 1学期終了後に学校主体（教育課程アンケート、学部会、教育課程検討委員会）で評価と改善案を検討し、検討内容を基に第三者等（県南3校教育課程等協議会）評価を行った。県南3校教育課程等協議会では、キャリア教育の推進に関わる全体計画やキャリア発達に関わる指標、地域資源を活用した学習の教育課程上の位置付け、年間指導計画の活用の方法等について、本校の実践や提案を基に、各校の取組の情報提供や今後の研究推進や教育課程改善についての意見交換を行った。一連の過程を進める中で挙げた小学部、中学部、高等部共通で挙げた教育課程に関わる改善案は、以下の通りである。また、以下の内容

を中心とした改善案を学部会・職員会議時に全職員で共有し、2学期の教育課程を実践した。

◆目標等に関わる事項：個別の指導計画、年間指導計画（目標、指導内容）の見直しと修正、地域資源を活用した学習のねらいの吟味
◆他学部連携に関わる事項：他学部連携の学習の教育課程上の位置付け、ねらいの吟味

- また、1学期と2学期の実践を踏まえて、各学部ごとにライフキャリアの視点から教育課程を見直している。そこで挙げられた教育課程の改善事項（今年度実施分）は、以下の通りである。 課題：課 改善事項：改

小学部	<p>課：学部合同の学習や行事等の事前事後学習が、2校時に入ることが多いため、国語・算数の時間の確保が難しい。</p> <p>改：学部職員で国語・算数の時間確保の意義（身に付けたい力を確認）を共通理解し、学習計画の見直しを行った。</p>
中学部	<p>課：今年度から作業学習の時数を増やしているが、2校時から作業学習に向かうことが難しい生徒がいる。</p> <p>改：2校時は実態に応じた学習の形態とし、生徒に応じて個別の対応をした。</p> <p>課：身に付けたい力を育成するための環境が整っていない学習グループがある。</p> <p>改：安心して学習に取り組むことができるための学習グループの再編と学習環境の設定（使用する教室等の調整）を行った。</p>
高等部	<p>課：着替えの時間の確保や清掃活動への指導体制が整っていない。</p> <p>改：日課表を見直し、着替えの時間の確保と清掃活動の時間確保と指導意義を確認した。</p> <p>課：作業学習の中で実施している企業連携型作業学習の事前事後学習を充実させたい。</p> <p>改：事業所に変更の経緯や目的を説明し、これまでの木曜日実施から水曜日実施とした（事業所1件）。</p>

(2) 1学期と2学期の実践を基にした評価と次年度に向けての改善案（詳細は、資料参照）

- 2学期には、次年度に向けた教育課程検討委員会を行った。1学期の評価、改善と2学期の実施状況より、次年度の教育課程の編成に向け、改善の視点を3点提案した。

◆特色ある教育課程（本の好きな児童生徒）
◆キャリア教育の充実を図った教育課程（ライフキャリアを視点とした授業づくり）
◆障害の多様化に対応する教育課程（自立活動の学習グループ、ねらい等の見直し）

II 地域資源を活用した授業づくり

1 主な取組

(1) 学校教育目標等、学部経営（重点）、育てたい力の確認

- ・4月に実施した全校研究会と5月に実施した学部研究会において、学校教育目標や学部経営の重点等を確認した。5月の学部研究会の際に、個別の指導計画を基にし、学部の児童生徒の「育てたい力」について検討した。

(2) 研究主題に基づいた学部のテーマの設定

- ・研究主題と学部研究会（5月）で出された「育てたい力」を基に、今年度の学部テーマを設定した。

学部	テーマ
小学部	周囲と関わりながら主体的に活動する姿を育む ～生活単元学習の実践を通して～
中学部	地域で様々な人と関わり、自分のよさを発揮し、主体的に活動する姿を育む ～生活単元学習の実践を通して～
高等部	目標に向かい、自ら発信し、行動する姿を育む ～職業科の実践を通して～

(3) 中心となる単元と他の指導の形態の関連性が見える年間指導計画の作成

- ・6月に年間指導計画の様式を研究部が提示した。その後、各学年や学習グループにおいて、学級担任等が記入し、作成した。作成した年間指導計画は、学部ごとに単元構想の際に用いたり、単元の評価や改善を定期的に行ったりしながら、授業者の共通理解を深めるツールとして活用した。また、学習指導案にも関連図（図2）を示し、本単元と関連（ねらい、内容等）のある指導の形態等を明記した。

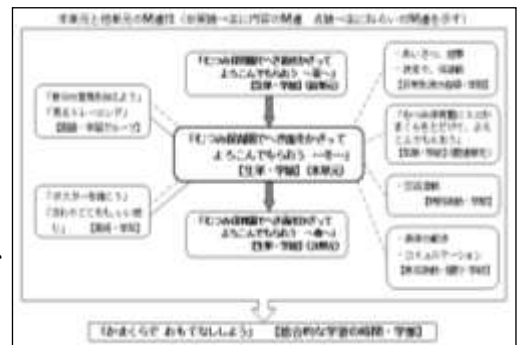


図2 学習指導案より抜粋

(4) 地域資源の活用を意識した単元（授業）づくり

- ・小学部・中学部：生活単元学習、高等部：職業科の学習に焦点をあて、児童生徒の変容や教師の指導・支援について着目し、授業づくりと授業改善を行った。全校授業研究会や公開研究会を通して得られた主な授業改善の視点（成果・課題）は、以下のとおりである。

（成果・課題 子：児童生徒の変容 指：指導・支援）

研究会等 (授業提示学年等) * 活用した主な地域資源	成果	課題
第1回全校授業研究会 (小学部4年) * 身近な校内人材	子 意欲的な活動参加 指 相手、目的が明確 指 教材（絵本の読み聞かせ）	子 友達同士の関わり 指 1単位時間の課題設定 指 学習ルールの確認
公開研究会 (小学部5年) * 関わりのある校内人材	子 相手意識の育ち 指 活動を振り返る時間の確保 指 教師の待ちの姿勢	子 興味・関心の持続 指 導入と活動内容の発展性 指 人材（地域資源）活用方法

公開研究会 (中学部3年) * 昔語り人材、地域施設	子 生徒の目的共有と協力 指 生徒主体の学習活動 指 評価(承認)工夫と達成感	子 役割(リーダー)の活躍 指 指導の形態の基礎理解 指 生活全体との関連性
公開研究会 (高等部1年Bグループ) * 卒業生の進路先	子 自分の考えを伝える 指 生徒に寄り添う問いかけ 指 キャリアノートの活用	子 学習課題の理解 指 職業科に関する基礎知識 指 単元のゴールと評価の工夫
第2回全校授業研究会 (中学部2年2組) * 近隣保育園	子 活動への見通し(主体性) 指 前単元等との関連性 指 活動の判断基準	子 関わりの質 指 個々の活動内容と役割 指 喜ばれる(承認)体験設定
第3回全校授業研究会 (高等部2年Aグループ) * 障害者職業センター	子 生徒主体の話し合い活動 指 学びの積み重ねの意識 指 外部(他者)評価の活用	子 教師と生徒の目標設定 指 話し合いの深め方 指 目標→実践→評価の過程

- 6月、10月、1月と授業づくり振り返りシート(本校作成)を用いて、授業づくりに関わる自己評価(個人評価と授業者間評価)を行った(資料2)。6月と10月の実施集計結果を比較(図3)すると、「他の単元や指導形態との関連の明確化」「空間、時間、活動の構造化」「児童生徒のやりとりの場の設定」の項目において、顕著な上昇結果が得られた。一方で、「学習ルールの徹底」「まとめの時間の確保と本時の学びを実感できる工夫」においては、数値の上昇は見られたものの、まだやや不十分との評価が多い結果が得られた。

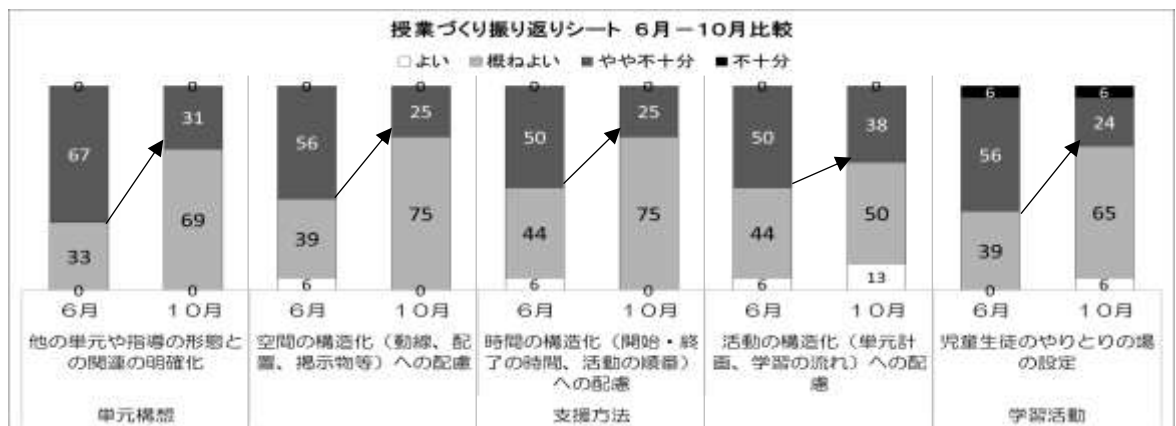


図3 授業づくり振り返りシート集計結果抜粋

2 小学部の実践

(1) 研究概要

①研究テーマ

周囲と関わりながら主体的に活動する姿を育む

～生活単元学習の実践を通して～

②テーマ設定の理由

ア 児童の実態

小学部の児童は、身近自立の面ではほぼ自立している児童から、肢体不自由を併せ有し、日常生活全般で支援が必要な児童まで、様々な実態の児童が在籍する。コミュニケーション面でも、言葉でやりとりができる児童から、言葉や指差しなどで気持ちを伝える児童、表情や発声で快・不快を表す児童まで、実態は様々である。好きな物や興味・関心のある活動が限定的になり、活動の広がりによって課題をもつ児童もいるものの、それぞれが好きな遊びや興味・関心の高い活動があり、それに対しては意欲的に活動に向かうことができる。

また、普段関わる機会が少ない教師や友達とは、関わり方に戸惑ってしまうことが多いが、関わりの多い教師や学級の友達に対しては、自分から言葉を掛けたり、遊びに誘ったりする様子が見られ、笑顔が多く見られる。一方で、学習場面になると、学級の友達であっても自分から関わることに消極的になることがあり、一つの目的に向かってお互いに協力していくことはまだ難しいことが多い。

イ 小学部において育てたい力

学部において育てたい力を学部職員で検討した。低学年は「興味・関心のある活動に向かって夢中になって取り組む力」、中・高学年は「誰かのためになったり、喜んでもらったりすることのうれしさを感じて活動する力」「学習のゴールが分かり、そこに向かって挑戦する力」が挙げられ、段階的にステップアップしていく必要性も挙げられた。これらの意見は概ね小学部におけるキャリア教育の重点と合致しており、育てたい力を①「興味・関心の幅を広げ、いろいろなことへ挑戦する力」②「周囲の人と関わっていく力」とした。②では、受け身的な関わりから、「周囲へ能動的に関わる力」、「周囲の人と協力したり役割を果たしたりしながら一つのことをやり遂げる力」へ発展していくのではないかと考える。

ウ 今年度の研究

全校研究主題を受け、今年度は児童の興味・関心の幅を広げ、周囲との関わりを広げていくことが期待できる校内外の資源を活用する。身近な人や場所に限定されがちな関わりを、教室内から小学部全体、学校全体と広がりをもたせ、学校内での関わりを充実させることで、自分の周囲を広げ、ひいては校外への人との関わりにステップアップさせていきたい。また、生活単元学習の中で、周囲と関わりながら一緒に活動する楽しさやうれしさを共有する喜びや、周囲の人のためになるうれしさを感じることで、主体的に活動する姿を育んでいきたいと考える。さらに、生活単元学習の授業づくりや授業改善を通して、教育課程の見直しを図っていきたいと考え、本テーマを設定した。

③研究仮説

校内外の資源を活用しながら、児童の興味・関心を基盤とした生活単元学習の授業づくりを行い、関わる楽しさ、うれしさ、学習への期待感や達成感を味わう場面を意図的に設定することで、更に興味・関心の幅を広げ、周囲と関わりながら主体的に活動することができるだろう。

④研究の内容及び方法

ア 小学部の教育課程の確認と検討（4月、7月、12月、3月 学部職員で実施）

- ・学部会での協議
- ・アンケートによる成果と課題を受けての検討、改善

イ 小学部で育てたい力と、活用する資源の検討（5月 学部職員で実施）

- ・学部研究会での協議

ウ 周囲と関わりながら、主体的に活動することができる授業づくりの検討

（6月～12月 学級ごとに実施）

- ・学級ごとの5グループによる、生活単元学習の授業実践
- ・生活単元学習の毎月の単元構想と、前月の単元の振り返り
- ・生活単元学習の授業づくりの見直し
- ・全校授業研究会（5年生、4年生）またはミニ授業研究会（10～12月 各学級）の実施

(2) 研究の経過

①小学部の教育課程の確認と見直し

- ・学部会（4／3、4／15）
→今年度の教育課程について学部職員で協議し、学部経営案と学部の重点事項などを確認した。
- ・学部会（7／23）
→アンケートを基に、1学期の教育課程の成果と課題を確認した。児童の実態や変容に合わせて、年間指導計画と個別の指導計画を見直すことと、「授業づくり振り返りシート」を生活単元学習の授業の評価・改善にさらに活用していくなど、今後取り組んでいくことを確認した。
- ・学部会（12／9、1／8）
→アンケートを基に、教育課程の評価・反省を行い、来年度に向けて改善案を検討した。

②小学部で育てたい力と、活用する資源の検討

- ・小学部で育てたい力の検討（5／14 学部研究会）
→学年ごとで検討し、共通理解した。（※前述④ーイ）
- ・活用する資源の検討
→今年度、活用する校内外の資源について、学部職員で検討し、共通理解した。

今年度小学部で活用した資源（表）

	資源		活動内容
	人	環境・施設	
低学年	家族、小学部の教師や友達、小・中中学校舎職員	教室、小・中中学校舎、中庭、	・ダンス、歌などの発表会
中学年	家族、小学部の教師や友達、中学部、高等部の教師や生徒交流校の友達	高等部校舎 近隣の公共施設や店舗、	・劇遊びと発表会 ・ひまわりの種まき、観察、プレゼント
高学年	家族、小学部の教師や友達、中学部、高等部の教師や生徒地域の方々（読み聞かせボランティア、図書館や交流校の友達や職員等）	交流学校 ※実態や活動内容によって選択する。	・お世話になった人へのおもてなし ・中学部の生活、学習についてインタビュー、発表

③周囲と関わりながら、主体的に活動することができる授業づくりの検討

（6月～12月 学級ごとに実施）

- ・生活単元学習の毎月の単元構想（7／28 1～2ヶ月に1回を予定）
→翌月の主単元での「育てたい力」を明確にする。また、時数や他単元、指導の形態との関連や、児童同士の関わりの設定について検討し、教頭からの指導助言に基づいて単元づくりに生かした。
- ・生活単元学習の毎月の単元の振り返り（7／28 1～2ヶ月に1回を予定）
→「授業づくり振り返りシート」を活用して、単元や授業の構想や支援方法などをチェックリストで評価し、翌月に重点的に力を入れていく項目を学年の教師で共通理解した。また、前月確認したその単元での「育てたい力」を受けて、児童の変容を確認し、成果と課題をまとめた。
- ・生活単元学習の授業づくりの見直し（7／23）
→生活単元学習の授業づくりについて研修会を行い、本校能登谷明子教諭が、年間指導計画立案や単元づくりに当たってのポイント、魅力的な授業づくりについて、経験に基づいた講話を行った。
- ・全校授業研究会または公開研究会事前研究会、公開研究会の実施
→4年生「ひまわりをそだててプレゼントしよう」（6／22 全校授業研究会を実施）
5年生「われらにここにおもてなしたい①」（9／9 公開研究会事前研究会を実施）
5年生「われらにここにおもてなしたい①」（10／2 公開研究会を実施）
- ・ミニ授業研究会の実施
→ミニ授業研究会を学年ごとに実施し、そこで得られた成果や課題を踏まえ、改善点を生かして事後授業研究会を行った。
 - 1、2年生「きらきはっぴょうかいをしよう～だいすきなせんせいへ」（10／22 ミニ研）
 - 3年生「きらきはっぴょうかいをしよう～3ねんせいへ」（12／3 事後研）
 - 3年生「おはなしだいすき②～おひさま劇場を開こう～」（11／6 ミニ研 11／18 事後研）
 - 6年生「中学部へ向かってチャレンジ！～インタビューやお手伝いをしよう～」（11／26 ミニ研 12／3 事後研）

(3) 授業づくりの実際

年 組 (学習グループ)	小学部1、2年
単元名 (時数)	「きらきはっぴょうかいをしよう～3年生へ」 (8時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を見てもらうことや、教師や友達と一緒に歌うことに期待感をもって、招待する教師や友達に呼びかけたり、気持ちや思いを伝えたりする。 ・発表会の流れや自分の役割が分かり、友達と一緒に物の準備をしたり、大きな声や動きで発表したりする。
単元の概要	本単元は、歌やリズム遊びなどの練習を友達と一緒にいき、発表会をすることで、活動を楽しみながら、教師や友達に呼びかけたり、言葉でやりとりしたりする力を育てる。また、発表会の流れや自分の役割が分かり、活動に主体的に取り組む気持ちを育てることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 児童の変容	<p>○本単元では、一緒に遊ぶことが多い3年生の友達との関わりを深めながら、3年生担任教師との関わりを広げることがねらいの一つとした。学習を進める中で、教師の名前を覚え、自分から名前を呼びかけたり、普段の生活の中で「○○先生の声が聞こえた」とうれしそうに話したりすることが増え、人との関わりが広がった。</p> <p>○児童同士のやりとりを多くすることと、担任以外の教師がいてもリラックスして活動することをねらって、発表会の練習の際から、招待する3年生と一緒に活動する場面を多く設定した。一緒に活動するうれしさを感じながら自分から友達や教師に呼びかけたり、リズム遊びでの言葉のやり取りを楽しんだりすることができ、人や活動への興味・関心の幅が広がった。</p> <p>○児童の好きな活動を多く取り入れたり、単元計画や学習内容を分かりやすい表にしたりすることで、発表会への期待感をもって活動し、歌やリズム遊びの発表だけでなく、あいさつや物の準備等、自分の役割も意識しながら主体的に活動することができた。</p>

年 組 (学習グループ)	小学部3年
単元名 (時数)	「おはなしだいすき②～おひさま劇場を開こう～」 (23時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容が分かり、友達とせりふや物のやりとりをする。 ・「おひさま劇場」で発表するために、自分の役割が分かりその役割に主体的に取り組む。 ・発表会を通して、保護者や小学部の職員、友達と楽しみながらやりとりをする。
単元の概要	本単元は、身近な人を「おひさま劇場」に招待して「おいもをどうぞ!」という絵本の劇を発表する学習を行う。劇の練習や準備を通して、物語の大まかな内容や自分の担当する役が分かり、自分の役に主体的に取り組む姿や、発表をすることを楽しみにしながら周囲の人への興味を広げコミュニケーションの基礎を身に付けることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 児童の変容	<p>○児童にとって身近な保護者や小学部の友達や職員を発表会に招待した。身近な人を活用することで、誰を招待するかが分かり発表会を楽しみにしたり、まだ関わったことのない小学部の友達や職員など周囲の人への興味が広がったりする様子が見られた。</p> <p>○発表を見る人や次の役の友達を意識して発表ができるように、劇の中で使っている「さつまいも」を次の役の友達や発表を見てくれた人に渡す場面を設定した。「さつまいも」を渡すときに発表を見ている人の反応を身近に感じることができ、まだ渡していない人を探したり、自分の次の役の人を覚えたりすることができた。やりとりの中で関わる楽しさを味わい、相手に何かしてあげたいという気持ちや相手意識を強くもつことができた。</p> <p>○練習の場面で声の大きさに応じて教師が「花丸、丸、三角」で即時評価を行った。花丸になるように意識してせりふを話し、丸や三角の時には、自分から言い直して花丸に近づけるように頑張っていた。花丸をもらえると満足げな表情で、達成感を味わっていた。</p>

年 組 (学習グループ)	小学部4年1組
単元名 (時数)	「ひまわりをそだててプレゼントしよう」 (23 時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの生長の過程を知り、花が咲くことへの期待感をもちながら育てる。 ・身近な人と一緒にミニひまわりの育ちを共有し、花をプレゼントする活動を通して、うれしい気持ちを感じながら意欲的に活動する。
単元の概要	本単元は、ミニひまわりを友達や教師と一緒に観察しながら育てることで、季節の変化や花の生長の過程を知ったり、担任以外の職員や交流相手、家族など児童に関わる人たちにプレゼントして喜ばれることを通して、相手への関心の幅を広げたりすることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 児童の変容	<p>○「事務室の〇〇さんに、お話をしに行こう。」「手紙を書いたら〇〇小学校の友達に喜んでもらえるね。」など関わった相手に関する発言が増えた。特別教室の入退室や敬語を交えた話し方、目的を伝えることなど、高学年らしいやりとりの場面が増えた。</p> <p>○種まきや水やりなどを通して、「伸びてきたね。」「そろそろ咲くかな。」など植物の生長や変化に関心をもつことができた。</p> <p>○始まりの音楽を流して着席を促したり、黒板に学習のめあてや課題を、文字や写真で掲示したりすることで、本時に「何のために、何をするのか」が分かり、落ち着いて教師の指示を聞いて時間いっぱい学習活動に取り組むことができるようになってきた。</p> <p>○学習の中で、子どもたち同士の直接的な関わりの機会が少なかったが、友達の活動を見たり、制作活動で完成したものを見せ合ったりすることで「〇〇さん、上手だね。」「ぼくも、やってみたい。」とお互いに良い刺激になる場面が増えた。</p>

指導計画 (第1回全校授業研究会)

小単元名	活動内容	主なねらい	時間
(ミニ) ひまわりのたねをまこう (6 時間)	・絵本「ひまわり」の読み聞かせを聞く。	・ひまわりの生長のおおよそのイメージをもつ。	1時間
	・ひまわりがいつ咲くか考える。	・ペン描きやシール貼りなど自分の得意な製作活動をする。	1時間
	・ミニプランターに装飾する。	・教師の手本を見て、プラカップに適量の石や土をスコップで入れる。	1時間
	・土や石の準備をする。	・石や土に触れて感触を味わう。	1時間
(ミニ) ひまわりをいっしょにそだてよう (9 時間) ※5、6時間目の遊びの指導「おはなしだいすき」の絵本の読み聞かせ時にも随時行う。	・観察記録を作って、壁面に掲示する。	・入れ方の順番など、教師の手本をよく見て、種をまく。	3時間
	・育ってきたひまわりを誰に見せたいかを考える。	・絵本「ひまわり」と見比べて、どのくらいに育ったのかを知る。	5時間 ※
	・校長室、事務室にひまわりを置きに行く。	・葉の枚数を数えたり、絵を描いたり貼り絵をしたりして、観察記録を作る。	1時間
(ミニ) ひまわりをプレゼントしよう (8 時間)	・校長室や事務室の水やり、観察等の世話をする。	・学校内で行きたい場所や話をしてみたい相手などを手掛かりにして、考える。	1時間
	・ミニひまわりの生長を見て、プランターカバーが必要なことを知る。	・適切なあいさつや伝える内容を考える。	3時間 ※
	・プラスチック板に装飾をする。	・適切なあいさつや話し方をする。	3時間 ※
	・プラスチック板を木枠につけて完成する。	・校長先生や事務室の方と教室のひまわりの写真と見比べて、育ちを確認する。	3時間 ※
(ミニ) ひまわりをプレゼントしよう (8 時間)	・プレゼントをする相手に簡単な手紙やミニひまわりを紹介する文や絵を書く。	・プランターカバーの必要性 (必要の理由、装飾などを楽しむこと) を知る。	1時間
	・訪問学級の友達 (担任教師)、交流校に手渡す。	・装飾活動で、それぞれの学習課題に見通しをもって取り組む。	5時間 概2/5
	・P T A 授業参観時に家族へプレゼントする。	・プレゼントをする相手のことを考えながら、手紙等を書く。	2時間
		・プレゼントを渡して感謝され、うれしい気持ちを味わう。	
		・家族等からの手紙を読んだり写真を見たりしながら、単元の活動を振り返る。	

年 組 (学習グループ)	小学部5年1組
単元名 (時数)	「われらニコニコおもてなしたい」 (31 時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人のためになることや喜んでもらえることを励みにして主体的に活動に取り組み、やり遂げることのうれしさや達成感を味わう。 ・友達と協力したり、役割を果たしたりしながら、自ら考え、選択して、おもてなしの準備を行う。 ・おもてなしする相手をしっかりと意識して、身だしなみを整え、場に応じた正しいあいさつや応対の仕方などの態度や知識を身に付ける。
単元の概要	本単元は、読み聞かせをしてくれたボランティアやお世話になった本校職員などに対して、感謝の気持ちを込めておもてなしをする活動を行う。そのおもてなしに向けて、内容を考えたり、応対のマナーを学んだり、教師を相手に練習を行ったりという活動を通して、主体的に活動する力や適切なコミュニケーションの力を身に付けることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 児童の変容	<ul style="list-style-type: none"> ○何年も前から交流のあるボランティア「れんげ草の会」との交流を軸に置くことで、児童は見通しと期待感をもって活動に取り組むことができた。交流のねらいや活動内容について、相手と打ち合わせをしながら学習を進めることで、効果的に学習を進めることができた。 ○もてなす相手をしっかりと意識できるように、授業の導入部でビデオレターや手紙を活用した。また、もてなした相手から直接感想を聞く機会や児童自身がおもてなしを受ける機会を繰り返し設けた。これらを通して、相手に喜んでもらうために主体的に活動する姿が見られるようになった。 ○活動への見通しをもち、やることを自分で確認することができるように、日程や学習内容を示した単元計画表や活動の手順や終了が分かりやすい手順表や写真カードなどを用意した。このことで、自分の役割が分かり、自信をもって主体的に活動に取り組む姿が見られるようになった。 ○児童同士で協力して活動を進めることができるように、活動内容や準備物を児童の実態に合わせて単純化し、整理した。自分の活動が終わった後に友達を手伝ったり、自分から友達に依頼したりする姿が自然と見られるようになっていった。また、学級の友達や教師のことを意識して、尊重しあう姿も見られるようになってきた。

指導計画 (公開研究会)

小単元名	活動内容	主なねらい	時間	
おもてなしたい いっせいで!	<ul style="list-style-type: none"> ・エプロンのデザインや合言葉を決める。 ・「おもてなしたい」のエプロンを作る。 	・「にこにこおもてなしたい」の活動に見通しと期待感をもつ。	4時間	
おもてなしを たいけんしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・コースター(染め紙)を作ったり、小皿(オープン粘土)を作ったりする。 ・学級菜園で収穫した野菜を使って、漬物を作る。 ・教師と一緒に確認しながら、おもてなしに必要な道具を準備する。 ・読み聞かせボランティアや高等部生のお礼におもてなしをする活動を体験する。 	・活動内容が分かって、準備やおもてなしをする。	8時間	
おもてなしめいじん になるう	おもてなしかたをかながえよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の喫茶店に行き、接客の様子を見学する。 ・おもてなし時の身だしなみや振る舞い、準備物を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしの時の身だしなみや適切な振る舞いが分かる。 ・自分たちで内容を工夫して準備を行う。 	6時間
	おもてなしのれんしゅうをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでおもてなしの準備をする。 ・教師を相手におもてなしの練習をする。 ・おもてなしの練習の様子を自己評価、相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して、自分たちで準備する。 ・身だしなみや振る舞いを意識して練習する。 	3時間
	おもてなしがんばろう!	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをしてくれたボランティアへお礼におもてなしをする。 ・おもてなしの様子を振り返り、成功を喜び合い、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して、おもてなしを行う。 ・お互いのがんばりを認め、成功を喜ぶ。 	3時間
	お世話になった人へおもてなしをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの役割として、毎日、校長へお茶出しをする。 ・喫茶実習をしている高等部生へおもてなしをし、助言を受ける。 ・昔語りをしてくれた中学部生へおもてなしをする。 ・お世話になった教師へおもてなしをする。 ・読み聞かせをしてくれたボランティアへおもてなしをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して、準備をしたり、確認したりする。 ・おもてなしで大切な身だしなみや振る舞いを確認し、実際のおもてなしに生かす ・相手が喜ぶことを考えて、おもてなしをする。 ・教師の評価や自己評価を受けて、次回のおもてなしの改善点を考える。 	5時間 4/5
	おもてなしをふりかえろう	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を振り返り、成功を喜び合い、自己評価、相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのがんばりを認め、成功を喜ぶ。 ・今後の活動に期待感をもつ。 	2時間

年 組 (学習グループ) 小学部6年1組	
単元名 (時数)	「中学部へ向かってチャレンジ」 (時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> • こんな中学生になりたいというイメージをもって、インタビューやお手伝いを通して、中学部の先生と関わったり、関わり方を知ったりする。 • 自分の役割が分かり、進んで取り組む。 • 中学部の活動を見たり、聞いたりすることを通して中学部へ興味・関心、期待感をもつ。
単元の概要	<p>本単元は、来年度進学予定である中学部へ行き、知りたいことをインタビューしたり、お手伝いをしたりすることを通して、中学部の先生と関わる機会を設定したり、調べたことを発表する内容とした。学習の中で、「かっこよく」をキーワードとし、関わり方や受け答えの仕方を学習することをねらう。</p>
授業づくり 授業改善 と 児童の変容	<p>○「かっこいい中学生」をイメージとして、ポイントを具体的に示して視覚的に掲示した。このことで、日常生活において「かっこよく」と言うと、意識して姿勢を正したり、大きな声で挨拶をしたり、ポイントとして提示した姿が身に付いてきた。</p> <p>○基本的な話形を示し、繰り返し練習した。また、即時的な評価や上達してきたことを教師も一緒になり共感したことで、自信をもって中学部の先生と関わる姿、家族へ発表する姿が見られた。特に家族への発表練習の場面では、上達してきていることを児童が実感し達成感がうまれ、自分の役割や友達の役割を意識し、もっとうまくできるようにと友達に教えるなどの主体性が見られた。</p> <p>○身近にいながらも、関わりが少なかった中学部の先生達とやりとりをすることで、自分達のことを知ってもらい、無理なく自分の力を発揮し、受け答えの仕方を学習できた。</p>



(4) 成果と課題

①成果

- ・他の指導の形態との関連性を考えたことで、児童は、生活単元学習で身に付けたことを他の学習場面でも活用することができた。内容が伝わるように考えて話をしたり、準備や後片付けを進めたりするなど、学習の中で身に付けたことを、日常生活に汎化できるようになってきた。また、単元目標や構成を見直したことで、生活単元学習や遊びの指導の時数を調整したり、学習内容や学習グループ等を改善したりする案が、多く出された。来年度の教育課程編成に生かしていきたい。
- ・「育てたい力」に向けて、関わりの少なかった学校職員や友達、地域ボランティアの方など、校内外の資源を活用し、学習内容を計画したことで、自分からあいさつをしたり、笑顔を見せたりしながら、関わりの楽しさやうれしさを共有して活動することができた。また、児童の、人や活動への興味・関心の幅が広がり、期待感をもって活動に意欲的に向かうようになってきた。学習の中での児童同士の関わりも多くなり、一つの目的に向かって友達と協力しながら主体的に活動できるようになってきている。これらのことより、校内外の資源の活用が大切であり、今後も地域だけでなく、校内の資源の活用も進めていく。
- ・毎月の単元構想や「育てたい力」の明確化、単元の振り返りを行うことで、今必要な力を明確にして授業づくりを行うことができた。また、単元の目標や構成の精選を行うことで、より単元目標にせまるような学習活動を展開することができた。その結果、学習のゴールや役割が分かって、自分から活動に取り組むようになり、達成感を感じる体験を積み重ねながら、期待感をもって学習に向かう姿が見られるようになった。

②課題

- ・児童一人一人の「育てたい力」を考えながら、単元構想や指導計画、授業づくりを行ってきたが、単元や個別の目標等、具体的な部分で、キャリア教育全体計画の学部のキャリア教育の重点と整合性が図れていないことがあり、その都度キャリア教育全体計画と照らし合わせながら再検討した。今後は、ライフキャリアの視点から、児童にとってどんな力が必要なのかを適宜見直し、学年だけでなく、学部全体で共有する必要があると考える。
- ・今年度、校外の資源を活用する前段階として、校内の人、環境・施設を活用した学年が多かった。そのことで、児童の興味・関心の幅が広がり、主体的な活動が見られるようになるなど、成果が挙げられた。一方で、単元の深まりや人との関わりの広がりを図るためには、校外の地域資源をさらに活用することが有効だったという意見も挙げられた。生活単元学習をより発展的に展開していくためには、さらにダイナミックな単元構想が必要であると考え。今後は児童の「育てたい力」に向けて、必要となる資源は何かを具体的に検討し、校外の資源も有効に活用していきたい。
- ・学年ごとに行ったミニ授業研究会では、1回目で得た成果と課題、改善案を踏まえて、事後授業研究会を行った。授業参観ができない教師には研究会の記録を回覧することで成果と課題の共通理解を図った。だが、得られた成果や課題を、学部全員で十分に共有できず、評価の際に使用した教材や場の設定などについて同じような課題が挙げられたり、教材や活動内容のよさを、他の授業に生かせなかったりした。授業改善を効率的に行い、学部全体で授業の質を上げていくために、多くの目で授業を見合い、授業の成果や課題を具体的に共有しながら、改善点を生かしていく必要があると考える。

3 中学部の実践

(1) 研究概要

①研究テーマ

地域で様々な人と関わり、自分のよさを発揮し、主体的に活動する姿を育む
～生活単元学習の実践を通して～

②テーマ設定の理由

ア 生徒の実態

中学部の生徒の実態は多様で幅があり、身辺処理が概ね自力でできる生徒のほか、肢体不自由を併せ有し、日常生活全般において支援が必要な生徒も在籍する。また、コミュニケーション面では、言語によるやりとりが可能な生徒のほか、発声や身振り、表情などで周囲の人に意思や気持ちを伝える生徒もいる。生徒同士の関わり合いは少しずつ現れてきており、困っている友達に声をかけて手伝ったり、友達の誘い掛けを受けて一緒に活動したりする姿が増えてきている。

学習の取り組み方については、生徒が自分の意思を伝えたり、思考や判断したりして、主体的に活動する姿が少ないという課題が、昨年の研究と授業実践から明らかとなっている。

中学部では秋田ふるさと村へのあさがおのプランター設置や、かまくらへの参加といった地域での活動を展開している。地域での活動は、生徒たちにとって学習に対する大きな動機付けとなっており、地域の方々から称賛や感謝をいただき、喜びややりがいを感じながら意欲的に活動に取り組んでいる。

イ 中学部において育てたい力

生徒の実態に応じて、学部で育てたい力を明らかにするため、学部職員で協議した。その結果、意思の表出やあいさつなどのコミュニケーション面や他者との関わりに関すること、自分のよさに気付くことや主体性に活動すること、他者の理解といった意見が挙げられた。これらは、キャリア教育全体計画の中学部における重点と概ね合致しており、中学部において育てたい力を「自信をもって主体的に、または安定した気持ちで活動する」「身辺処理を含め、自分のことは自分でする」「自他の関係や差異の理解を通して、自分のよさに気付く」とした。

ウ 今年度の研究

全校研究主題の基、生徒の学習や生活への意欲を高めるため、地域資源を活用した生活単元学習を授業づくりの中核に据え、仲間や地域の人たちとの関わりを通して、自分のよさやできることを発揮したり、主体的に活動したりする姿を育てていきたいと考える。さらに、授業づくりの成果と課題を生かし、教育課程の見直しを図っていきたい。

③研究仮説

生徒が地域の中で、多くの人からの称賛や感謝を得て、楽しさや喜び、達成感を感じられる生活単元学習を展開することで、様々な人との関わりを深め、自分のよさやできることを発揮し、主体的に活動できるようになるだろう。

④研究の内容と方法

ア 中学部の教育課程の検討（4月・7月・12月・3月、学部全職員で実施）

- ・学部会における検討
- ・アンケートによる成果と課題の整理

イ 中学部で育てたい力と今年度活用する地域資源の協議（5月・6月、学部全職員で実施）

- ・学部研究会における協議（学年部でのグループ協議及び全体協議）

ウ 人との関わりを深め、自分のよさを発揮できる生活単元学習の授業づくり

（9～12月、学年合同または学級単位で実施）

- ・1年1・2組合同、2年1組、2年2組、3年1・2組合同の4グループによる生活単元学習の授業実践
- ・全校授業研究会（12月、2年2組）及びミニ授業研究会（11～12月、1年1・2組合同、2年1組）の実施

- ・授業構想会及び指導案検討会の実施（8月、3年1・2組合同 11月、2年2組）
- ・年間指導計画の確認と修正（毎月、生活単元学習の学習グループごと）
- ・授業づくり振り返りシートを用いた授業実践の評価と修正（毎月、生活単元学習のグループごと）

（2）研究の経過

① 中学部の教育課程の確認

- ・学部会（4/3、4/15）
→今年度の教育課程について、全職員で検討し、学部目標、重点事項、週時程などの確認と共有を図った。
- ・学部会（7/17、8/19）
→アンケートにより、1学期の教育課程の成果と課題を確認した。個別指導計画や年間指導計画の活用方法の検討など、2学期以降に取り組むべきことを共有した。

② 中学部で育てたい力と今年度活用する地域資源の協議

- ・中学部で育てたい力の協議（5/14学部研①）
→学年ごとにグループ協議を行い、その後全体で共有した。（※前述2-(2)）
- ・今年度活用したい地域資源の協議（5/14学部研、6/26学部研）
→生活単元学習の年間指導計画の検討と同時に、活用が考えられる地域資源を学習グループごとに協議、選定した。

今年度中学部で活用した地域資源（表）

学習グループ	活用する地域資源	活動内容
1年1・2組合同	・秋田ふるさと村 ・家族等の身近な人 ・かまくら	・あさがおのプランター設置、管理、観察記録のまとめ、種とつるの収穫 ・種の袋詰めとリースの制作とプレゼント
2年1組	・職員室、事務室、来校者	・裏紙の印刷、校内外の清掃、リサイクル封筒やエコ薪の制作等
2年2組	・近隣の保育園	・壁面飾り制作、校内外の清掃、奉仕活動
3年1・2組合同	・全校児童生徒、老人福祉施設 ・昔語りの会 ・増田の内蔵	・昔語りの発表 ・昔語りの指導、交流等 ・校外学習（見学）、昔語りの発表

③ 人との関わりを深め、自分のよさを発揮できる生活単元学習の授業づくり

- ・授業研究会の実施
中学部3年1・2組合同：9/8公開研究会事前研究会、10/2公開研究会
中学部2年2組：12/1全校授業研究会
中学部2年1組：11/10、11/30ミニ授業研究会
中学部1年1・2組合同：11/27、12/7ミニ授業研究会
- ・年間指導計画の確認と修正と授業の振り返り（5/14、6/26、7/27、9/15、1/8学部研）
→授業づくり振り返りシートを活用し、月間の生活単元学習の授業づくりについて、学習グループごとに振り返りを行い、その結果を年間指導計画に反映させた。
- ・生活単元学習についての学習会及び研修会（6/26学部研、7/24校内研修会）
→学部研では、特別支援教育課主催の特別支援教育学校授業改善プロジェクト（生活単元学習）の資料を活用し、年間指導計画の確認や修正を行った。校内研修会では、生活単元学習の実践が豊富な本校教諭を講師に、授業づくりのプロセスを学んだ。
- ・授業構想会（7/27、8/4【3年1・2組合同】・10/26【2年2組】）
→教育専門監と研究主任を交え、目標や指導計画の確認や修正を図り学習指導案に反映させた。
- ・指導案検討会（8/19【3年1・2組合同】、11/13【2年2組】）
→学年部で構成する小グループによる検討を行うことで、意見交換の活性化を図った。

(3) 授業づくりの実際

年 組 (学習グループ)	中学部 1年 1・2 組
単元名 (時数)	「あさがお大作戦！」～育てよう、届けよう～ (33 時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと村での朝顔の観察や世話を通して、地域の方々との関わりをもつ。 ・同学年の友達に仲間意識をもち、一緒に活動したりふるさと村まで並んで歩いたりする。 ・分担された活動が分かり、進んで取り組む。 ・朝顔の世話や種のプレゼントを通し、身近な人に感謝される喜びや満足感・達成感を味わう。
単元の概要	本単元は、交流会で植えた朝顔を引き続き世話をしていく活動を通し、仲間を意識したりまとまって活動したりする力を付けていく。また、朝顔の世話や種のプレゼントをすることで周囲に感謝され、達成感・満足感を感じていくことをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<p>○シンプルな活動を繰り返すこと、学習のスケジュールを分かりやすくすること、教室環境や動線を整えること等により、生徒は活動に見通しをもち、安定した気持ちで学習に臨むことができた。身体を動かすことや制作活動が好きという生徒の興味・関心に基づいた活動を、地域資源を活用しながら意図的に取り入れたことで、一人一人が得意分野を発揮し、さらにそれが周囲に認められるという経験を重ねることができた。</p> <p>○自分から関わっていくことが難しい生徒たちであるが、ふるさと村での活動や種のプレゼントを繰り返すことで、むつみ造園の方やふるさと村職員の方との関わりを広げ、教えていただきながら世話をしたり、プレゼントしたい身近な人を自ら選んだりする姿が見られるようになった。</p>

年 組 (学習グループ)	中学部 2年 1 組
単元名 (時数)	「なんでも会社 2～学校みんなのためにはたらこう～」 (34 時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割や活動が分かり、依頼された仕事を最後までやり遂げる。 ・仕事を依頼された相手と一緒に活動する友達・教師と適切に関わりながら活動に取り組む。
単元の概要	本単元は、身近な人・施設などのために役に立つ仕事（リサイクル封筒・エコ薪などの制作活動や校内外の清掃活動など）に取り組む。人から感謝される体験を積み重ねることで、満足感や達成感を感じ、自信をもって活動に取り組む姿や、自分の役割を果たそうとする姿を育てることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<p>○活動を分担し、生徒一人一人が得意な活動や興味・関心のある活動を中心に組み込んだことで、時間いっぱい取り組んだり、自分から活動に向かったりするなど、主体的に活動に取り組む姿が見られた。また、繰り返しの活動を設定したことで、自分の活動の手順や内容を覚え、一人で活動に取り組むことが増えた。</p> <p>○生徒にとって身近な存在（地域）である、「校内の教職員のため」の活動を取り上げて単元を展開したことで、仕事の依頼者から直接感謝される体験が積み重なり、笑顔で依頼者に配達したり、マナーを覚えて受け応えしたりするなど、身近な人と主体的に関わることが少しずつできるようになってきた。</p>

年 組 (学習グループ)	中学部2年2組
単元名(時数)	「むつみ保育園にへき面をかざってよろこんでもらおう ～冬～」 (28時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・喜んでもらうことを意識し、よりよくしようと選択したり、考えたりしながら、最後まで自分の役割を果たす。 ・材料や用具の特徴を知り、材料や用具の扱いに慣れたり、選択したりしながら作る。 ・マナーを守ってむつみ保育園を訪問し、主体的に掲示したり、質問したりする。
単元の概要	本単元は、学習したことを披露し、喜んでもらうことを通して、頑張りを認めてもらううれしさを味わい、主体的に活動したり、最後まで自分の役割を果たしたりすることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<p>○学習活動や学習の流れを前単元とほぼ同じ内容にしたことで、特に、むつみ保育園での訪問、掲示の際には、椅子に上がり積極的に掲示しようとする生徒、自分から友達の椅子を押さえにまわる生徒と、自然と役割が生まれ、協力して進めることができた。</p> <p>○メジャーなどの使い方や、学習の活動内容を教師が初めに教えることで、安心して活動に取りかかり、失敗をして消極的になることが減った。そして、その次に、自分で進められる手立てや、仕上りの善し悪しを判断できる手がかりを準備することで、今までの経験を思い出したり、考えたりして取り組むようになってきた。</p> <p>○地域資源を本校の隣に位置しているむつみ保育園にしたことで、訪問を繰り返す毎に、生徒が先頭をきって歩いて向かい、玄関先で自信をもって挨拶する、主体的な姿が見られた。</p>

指導計画 (第2回全校授業研究会)

小単元名	活動内容	主なねらい	時間
1 「デザインを考えよう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面飾りのデザインや、作る飾りの担当を話し合って決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元のことを思い出し、自分の考えや感じたことを、理由を付けて話したり、相手の意見を受け入れたりしながら、話し合いを進める。 	2時間
2 「かざりを作ろう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙と画用紙を用いて、背景を作る。 ・話し合って、壁面飾りのレイアウトを考える。 ・担当する飾りを作る。 ・作った飾りをレイアウト通りに貼り、壁面飾りを仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に喜んでもらえることを意識し、線にはみ出さずに貼ったり、切ったりしながら、最後まで丁寧を作る。 ・材料や用具の扱い方に慣れ、特徴を考えて、使う。 ・自分の意見を伝えたり、友達の意見を受け入れたりしながら、協力して壁面飾りを仕上げる。 	17時間
3 「むつみ保育園にかざりをとどけよう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・むつみ保育園の園児や職員の方に質問する内容を考える。 ・むつみ保育園を訪問するときのマナーを確認し、練習する。 ・むつみ保育園を訪問し、壁面飾りを貼る。 ・園児や職員の方に、感想を聞いたり、質問したりする。 ・むつみ保育園で聞いた感想や質問をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した飾りに沿った、質問内容を考える。 ・訪問時のマナーについて考え、あいさつ等の練習に取り組む。 ・マナーを守って訪問し、協力して壁面飾りを掲示したり、質問したりする。 ・壁面飾りの掲示等を通して、達成感や喜んでもらううれしさを味わう。 ・質問等の結果をまとめ、春の壁面飾り作りで気を付けることを考える 	7時間
4 「むつみ保育園に回収に行こう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・むつみ保育園を訪問するときのマナーを思い出し、練習する。 ・むつみ保育園で壁面飾りを片づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示のときのマナーを振り返り、あいさつ等の練習に取り組む。 ・マナーを守って訪問し、協力して壁面を回収する。 ・壁面飾りを回収したり、今までの活動を振り返ったりして、春の壁面飾りへのやりがいや期待感をもつ。 	2時間

年 組 (学習グループ)		中学部 3年 1・2組
単元名 (時数)	「われら横養むかしがたり隊②～ビハーラ赤坂で発表しよう～」 (26 時間)	
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・昔語りの発表や準備の中で、自分にできることを考えたり、仲間と協力したりしながら役割を果たす。 ・昔語りの言葉や語り口の特徴と物語の内容に興味をもったり、発表する相手に合わせた発表や準備をしたりする。 	
単元の概要	<p>本単元は、横手地域に伝わる昔語りの活動を通して、自分の役割を果たしたり、仲間と協力したりする態度や意欲の育成とともに、横手地域の文化を学んだり、人材と交流したりすることをねらいとする。また、昔語りの発表を通して、自信をもって活動する姿の育成をねらう。</p>	
授業づくり 授業改善の ポイント (学部テーマに迫る児童生徒の変容)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の昔語りの会の方と継続的な交流を設定した。このことで以下の成果が得られた。①生徒の昔語りの文化や表現方法などについての理解が深まった。②生徒が様々な方との関わりを経験できた。③交流を重ねることで、昔語りの会の方々が生徒のがんばりを認めたり、理解を深めたりしてくださった。 ○自分の興味関心に基づいた活動及びグループ設定を行った。このことで、生徒が主体的に活動し、昔語りの発表や準備などを工夫して取り組むようになった。また、生徒が新たな一面を見せるなどの成果もあった。 ○グループでの活動を継続したことで、生徒同士のつながりも深まった。教師が主導するのではなく、少しずつ生徒に依頼する部分を増やすことで、自発的にリーダー的な役割を担ったり、声を掛け合って活動したりする姿が現れた。 	

指導計画 (公開研究会)

小単元名	活動内容	主なねらい	時間
1「発表する物語を決めよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・次の発表の機会と、それまでの予定を確認する。 ・老人施設についての物語を聞いたり、見学したりする。 ・取り上げる物語を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の発表の機会と、それまでのスケジュールが分かる。 ・老人施設はどのような場所で、どのような方々がいるかが分かる。 ・発表したい物語を仲間や教師と相談して決める。 	4時間
2「準備と練習をしよう」 (グループ活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の演示を見て、やってみようことや必要な役割などを考える。 ・自分の役割に応じて準備や練習を進める。 ・前単元の発表を振り返り、語りのポイントに気を付けて語りの練習をする (語りグループ)。 ・語りを補う映像や音などを準備したり、語りにも合わせる練習をしたりする (アレンジグループ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の演示を見て、どのような役割があればよいか気付く。 ・前回の発表の経験から自分がやりたい、または向いていると思う役割を選ぶ。 ・発表に向けて、教師と相談したり、仲間と見せ合ったりしながら練習や準備をする。 ・物語の情景や登場人物の心情、言葉の意味などに合わせた語りをする。(語りグループ) ・語りを補う映像や音などを考えたり、仲間と相談したりする。(アレンジグループ) 	9時間
3「昔語りの先生に教えてもらおう」	<ul style="list-style-type: none"> ・語り部の会の方々に指導を受けたり、質問したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔語りの会の方々と交流し、上手に語るためのポイントが分かったり、質問したりする。 	4時間
4「お年寄りの方のことを考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方に合わせた発表を練習する。 ・老人施設へ案内状を書き、届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや速さなどお年寄りに合わせた発表の仕方に気付き、実践する。 ・お年寄りの方へ、気持ちを込めた文章を書く。 	2時間
5「発表リハーサルをしよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの練習の成果をまとめ、リハーサルをする。 ・仲間とよりよい発表にするために意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の流れが分かり、仲間同士声を掛け合って、リハーサルを進める。 ・本番に向け、発表を成功させるための課題に気付いたり、修正したりする。 	3時間
6「発表しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ビハーラ赤坂で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの準備や練習の成果を生かし、自分の役割をやり遂げる。 ・地域での発表の機会を楽しむ。 	2時間
7「発表のまとめをしよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・VTRやアンケートで成果や課題をまとめる。 ・発表しての感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を振り返り、自分や仲間のよかったことや、今後チャレンジしたいことを見つける。 ・準備から発表までを振り返り、自分や仲間のがんばりを認め合う。 	2時間

(4) 成果と課題

①成果

- ・地域資源を活用した学習活動を年間通して展開することで、生徒が地域における活動を繰り返し経験し、成就感や達成感を十分に味わう機会を設定することができた。また、生徒が地域における活動に対して意欲的、主体的に取り組むようになるなど活動への取り組み方の変容にもつながった。加えて、地域の方も生徒と継続的に関わることで、生徒理解が深まり、具体的で伝わりやすい言葉を掛けるようになるなど、関わり方の変化や、相互理解の深まりが現れた。
- ・毎月の「授業づくり振り返りシート」を活用した授業の見直しは、授業者間で課題を共有したり、手立てを検討したりすることに有効であった。単元構成の見直しやプランニングも十分に行うことができた。また、必要に応じて年間指導計画の見直しにつなげることもできた。
- ・繰り返しの活動を中心とした学習を展開してきたことで、生徒が自分の役割が分かり、見通しをもって安心して学習に取り組む姿や、自分の得意な活動やよさに気づき、それを発揮して主体的に活動する姿が現れるようになった。
- ・地域資源を活用した生活単元学習の取組で、校内外の人とのコミュニケーションの取り方を覚えたり、地域の方から貢献活動への感謝や文化に関する指導を受けたりすることができた。例えば、あいさつなどの言葉遣いや話し方を理解したり、昔語りの技法や地域の文化などを学習し、その成果を発揮したりすることができた。

②課題

- ・地域資源の活用について、3年間を通じて「地域に出る」といった活動の場だけではなく、目標や活動内容を発展させる視点をもちたい。学年進行でねらいや活動を発展、継続させていくなど、学部内で系統的な指導内容や方法を検討し、教育課程の編成に生かしたい。また、地域資源の選定に当たっては、生徒の育てたい力や姿を具現化するためにどのような活動や環境が必要となるかという視点に基づき、生徒にとって必然性、有用性のあるものであるか吟味したい。
- ・地域資源から学ぶことに加え、生徒が地域で学びの成果を発信し、学びをさらに深められる活動のサイクルを検討したい。例えば、昔語りを地域の先生から学び、その成果を地域の施設で発表し、その経験を次の発表の機会に生かすといった流れが想定される。また、「地域に出る」という視点のみならず、「地域の方が学校を訪れる」といった取組も展開し、学校と地域の行き来が生まれることで、継続的な交流が可能になり、相互理解が深まることが期待される。
- ・生活単元学習について、以下の2点からの改善を図りたい。1点目は、生徒が課題意識をもって活動に取り組むための授業づくりである。生徒の興味関心や必然性などを考慮し、生徒が課題意識をもち、それを解決するために、自分の目標や活動内容が分かって取り組むといった主体的な姿を育むための単元設定や指導計画を検討していきたい。2点目は、今年度の「よさを発揮する」という視点に加え、「可能性を生かす」という視点を大事にしたい。学習の中で生徒が「自分もこんなことができるんだ!」といった実感ができるような授業づくりのために、生徒の「可能性」を見いだす実態把握や単元設定ができるようにしたい。



4 高等部の実践

(1) 研究概要

①研究テーマ

**目標に向かい、自分から発信し、行動する生徒を育む
～職業科の実践を通して～**

②テーマ設定の理由

ア 生徒の実態

高等部は、ほぼ身辺自立している生徒から、肢体不自由を併せ有し、日常生活全般で支援が必要な生徒まで、様々な実態の生徒が在籍する。コミュニケーション面では、言語によるやりとりが可能な生徒や、言語以外の方法で意思を表す生徒が在籍している。高等部では、作業学習製品販売や、地域の梵天行事への参加、実習など、地域社会との関わりを通して生徒が活動に手応えを感じ、成就感を得られるような学習を重視している。手順や役割分担が明確で、経験を積んだことがある活動では、自分から取り組み、自分の力を発揮することができる。生徒同士で意見交換し、必要なことを決めたり、他者と協働して課題解決を図ったりする経験が少なく、実態差がある。

イ 高等部において育てたい力

学部として育てたい力を設定するにあたり、協議を行った。協議では「自分から」という言葉が多く挙げられ、自己理解を深め、状況や目的に応じてよりよい行動を選択し、実践する経験を積むことで地域生活に必要な力を付けてほしいと考えていることが分かった。協議で出された意見と学部のキャリア教育の重点から、育てたい力を「地域社会における自他の役割を理解し、実践する力」、「集団の中で主体性を発揮する力」「経験をもとに自分の卒業後の生活を選択・決定する力」とした。

ウ 今年度の研究

今年度は、職業科を取り上げ、キャリアノートと地域資源を活用し、生徒が社会生活に必要な力を自分にとって必要なこととして具体的に捉え、目的意識をもって学びの成果を実践できる授業づくりに取り組む。キャリアノートは生徒の学びの指標であり、振り返りや自己評価を経て自己理解を深めるために有効な支援である。また、地域資源の活用では、職場体験など、地域で働く人などの人的資源や地域生活に学ぶ活動や、実習などによって地域で自分の力を発揮する活動などが考えられる。このように、地域資源に学び、自分に学びを還元し、発揮する学習を通して、学部テーマにある姿を育む。

③研究仮説

生徒が現在の自分と地域生活に必要な能力をキャリアノートによって結び付けて考え、地域資源に学んだことを自分に還元したり、学びを発揮したりする学習を積み重ねることで、役割の理解や集団の中での主体性の発揮、学びと体験を生かした主体的な選択・決定などの社会的自立に必要な力が育まれ、目標に向かい、自分から発信し、行動することができるようになるであろう。

④研究の内容と方法

ア 高等部の教育課程の検討（4月、7月、12月、3月 学部全職員で実施）

- ・学部会における検討
- ・アンケートによる成果と課題の整理を基にした学部会における協議

イ 高等部で育てたい力と今年度活用する地域資源の検討

（5月、6月、7月 学部全職員で実施）

- ・学部研究会における「育てたい力」と職業科の年間指導計画の協議、共有（4～6月）

ウ キャリアノートと地域資源を活用した職業科の授業づくり（8～1月 学習グループ別）

- ・全校授業研究会及びミニ授業研究会（9月～1月 各学年の学習グループ別）

1年 A, B, Cグループ 2年 A, Bグループ 3年 A, Bグループ

- ・授業構想会（授業者を中心に実施 8月 1年Bグループ 10月 2年Aグループ）
- ・学習指導案検討会（学部全職員 8月11月）
- ・学部研究会における 年間指導計画の確認と指導内容の共有（4月～6月 学部全職員）
- ・年間指導計画の修正（毎月 職業科のグループ毎に学部全職員で実施）
- ・「横養スタンダード」「授業づくり振り返りシート」を用いた授業実践の評価と修正
（毎月 職業科のグループごと）

（2）研究の経過

①教育課程の確認と見直し

- ・学部会において、今年度の教育課程について学部全職員で協議し、学部目標、重点事項、週時程の確認と共有を図った。（4/3、4/15）
- ・1学期の教育課程について学部全職員で成果と課題を協議し、共有を図った。（7/22）

②高等部で育てたい力と職業科における活用が考えられる地域資源の検討

- ・ライフキャリアの視点を踏まえ、学級担任を中心に「個として育てたい力」「集団として育てたい力」を検討した（5月）。学部研究会①において学部全職員で共有を図った（5/14）
- ・職業科の年間指導計画について、指導内容や方針、職業科での活用が考えられる地域資源について共有を図った。（学部研究会② 6/17）
- ・学部研究会③において、職業科の指導内容とライフキャリアを踏まえた「育てたい力」との関連について学部研究の方向を確認した。（7/19）

高等部で活用した地域資源（表）

学年	活用する主な地域資源	主な活動内容	職業科で扱う主な指導内容
1年	学校、家庭、校内の先輩、卒業生、一般事業所、福祉事業所、公共交通機関	職場見学、職場体験、職業マナー講習 校内実習	自己理解、身近な人の仕事、いろいろな仕事、働くことへの理解、進路希望、生活管理
2年	学校、家庭、卒業生、一般事業所、福祉事業所、交通公共機関	校内・現場実習、職場体験、職業ガイダンス、職業マナー講習	自己理解、進路相談、働くことへの理解、生活管理、金銭管理、職場でのマナー
3年	学校、家庭、一般事業所、福祉事業所、市町村社会福祉課、ハローワーク、障害者・就労支援センター、公共交通機関	職場見学、校内・現場・地元実習、移行支援ネットワーク会議、求職登録、職業評価	自己理解、関係機関の役割や利用できる制度の理解、卒業後の生活の理解、履歴書の書き方、面接の受け方

③キャリアノートと地域資源を活用した授業づくり

- ・全校研究会を受け、授業づくりに関するアンケートを実施した。（4月）
- ・1年職業Bグループについて教育専門監、研究主任を交えて授業構想会を実施した。1年生として職業科で何を指導していくか、ねらいや指導計画の検討を行った。（8/3）
- ・学部研究会④において、学部全職員で目標や指導計画について検討した。（8/21）
- ・卒業後の社会生活に必要な力と各学年で扱う指導内容について進路指導主事を中心に選定、キャリアノートを発刊した。また、学部研究会⑤において、活用の在り方について学部全職員で共有を図った。（9/10）
- ・公開研究会に向けた事前研究会において1年職業Bグループの授業実践を行った。（9/9）
- ・2年職業Bグループの授業実践、ミニ授業研究会を行った（9/30、10/14）。
- ・3年職業Aグループの授業実践、ミニ授業研究会を行った（10/21）。
- ・第3回全校授業研究会に向けて、2年職業Aグループの指導案検討を行った（9/24、11/12）。
- ・学部研究会⑥において、各学習グループでどのようにライフキャリアの視点、地域資源の活用を授業づくりに取り入れているか共有を図った。また、キャリアノート活用の状況や生徒自身が活用していくための工夫の仕方についても検討した（10/8）。
- ・1年職業Aグループ、2年職業Aグループ、3年職業Bグループの授業実践、ミニ授業研究会を行った（11/26）。
- ・1年職業A、Cグループ、3年Bグループの授業実践、ミニ授業研究会を行った（12/15）。
- ・学部研究会⑦、⑧において、今年度の成果と課題について協議を行った。（1/8、1/26）

(3) 授業づくりの実際

年 組 (学習グループ) 高等部1年Aグループ	
単元名 (時数)	「実際の職場を知ろう～サンワーク六郷の見学～」 (11時間)
単元目標	・校内実習から自己の課題が分かり、今後努力することを考える。
単元の概要	本単元は、職場見学を通して、既習の知識について実際の職場で確かめたり、必要な力を新たに知ったりすることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ○各見学先で調べたり質問したりしてくる事柄を、生徒間の話し合いで決める機会を設けた。その結果、各見学先で生徒各々がその事柄について自分なりの考えをもち、その後の授業でまとめることができた。 ○将来の夢(目標)を考える時間を設定した。「自分の将来のために」という視点をもつことで、様々な学習の必然性やそれに向かうモチベーションを高めることができたのではないかと考える。 ○見学で学んできたことと、自分が希望する将来の夢(目標)とを照らし合わせて、今現在の課題を確認したり、これから努力することを決めたりする機会を設定した。ワークシートへの記入と併せて行ったことで、考えを整理できた。 ○教師が授業を計画する際の材料として活用した。単元に該当する内容を、実態や学習段階に合わせて詳しく説明したり、記入する量を変更したりして、ワークシートを作成した。

年 組 (学習グループ) 高等部1年Cグループ	
単元名 (時数)	「小学部、中学部の校舎を掃除しよう」(9時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を通して、役割分担を決める。 ・相手(小、中学部の児童生徒、職員)に喜んでもらいたい気持ちを持ち、ルールを守って清掃に取り組む。
単元の概要	本単元は、ルールを守って自分の役割を果たす活動を通して、相手に喜ばれることのうれしさを感じたり、自分が相手のためにできることがあることを実感したりすることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元である実習の振り返り、雑巾づくりと本単元とのつながりを考え、指導計画を立てた。このことは、「自分達でできることを相手のために行いたい」という意欲の持続につながり、ルールを守って清掃活動に取り組む姿につながった。[ライフキャリア：自分らしさ、集団における主体性の発揮] ・自分達がお世話になった小・中学部を清掃するという目的が分かり、「〇〇先生にがんばっているところを見てもらいたい」「きれいに掃除して喜んでもらいたい」という意欲をもって自分の担当箇所を最後まで掃除することができた。[地域資源の活用] ・生徒が清掃や雑巾づくりに取り組んでいる写真を取り入れたり、他者に見せて発表したりする学習を取り入れた。このことにより、自分で自分の取り組みを振り返り、「〇〇さんが取り組んだこと」「よかったこと」「まだがんばりたいこと」などを本人が話すことができるようになった。[キャリアノートの活用]

年 組 (学習グループ)	高等部1年Bグループ
単元名 (時数)	「やりたい仕事を見つけよう①～先輩の職場を見て、聞いて～」 (17時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学を通して、地域にある様々な職場とその作業種(職種)を知る。 ・職場見学や卒業した先輩、職場の職員とのやりとりを通して、働くことのよさを知り、働くことへの興味・関心を高めたり、働くために大切なことに気付き、普段の生活の中で実践していこうとする意欲をもったりする。
単元の概要	本単元は、卒業生の就労先を見学したり、インタビューしたりする活動を通して、働くことへの関心を高め、友達と感想を発表し合う中で働くことのよさや働くために大切なことに気付き、普段の生活の中で実践していこうとする意欲を育むことをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返り場面で分かったことをまとめられるように、写真やキーワードを書いた付箋等も使えるよう様式を簡単に活用した。生徒にも学習の積み重ねが分かり、繰り返し見て確認する姿が見られた。また、家庭にも持ち帰ることで保護者と情報を共有することができた。 ○同じ職場を2回訪問した。1回目の訪問で生まれた疑問を生徒が直接、卒業生や職員にインタビューすることで、仕事や働くことを身近なこととして感じ、主体的に学習に取り組むことができた。 ○見学、インタビューして分かったことを基に一人一人が自分の感想や意見を発表し、共有することで、自分のできる仕事ややりたい仕事を考えたり、そのために今の自分が頑張らなければならないことに気付いたり自分置き換えて考えることができるようになってきた。

指導計画 (公開研究会)

小単元名	活動内容	主なねらい	時間
先輩の職場を見学しよう (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩(卒業生)がどこで働いているか調べる。 ・見学してみたい職場を決め、場所、日程、交通手段について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩(卒業生)の働いている会社や事業所が分かり、関心をもつ。 ・見学する職場を知り、見学に対する意欲を高める。 	2時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに先輩の職場を訪問し、説明を聞いたり、見学したり、体験したりする。 ・見学して見たこと、聞いたこと、分かったことを見学カードに書き、パネルにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の作業種(職種)や環境、先輩の働く様子が分かる。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・見学した職場についてまとめたことを紹介する。 ・感想を話したり、職場を比較したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの職場を比較して、作業種(職種)や職場環境、先輩の働く様子の違いや共通点が分かる。 	1時間
先輩にインタビューしよう (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー項目を考える。 ・インタビュー時の挨拶や話し方等について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境や働いている先輩に興味をもち、働くことへの関心を高める。 	2時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに先輩の職場を訪問し、インタビューする。 ・インタビューして分かったことを話したり、書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業種(職種)や職場について理解を深める。 ・学校生活との違いや仕事のやりがい、大変さなどを知る。 	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー結果を整理する。 ・感想などを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことのよさや働くために大切な事柄が分かる。 	1時間
働くことについてまとめよう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くために大切なこと」を話し合う。 ・キャリアノートにまとめる。 ・礼状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くために大切なこと」が分かり、普段の生活の中で実践していこうとする意欲をもつ。 	3時間

年 組 (学習グループ) 高等部2年Aグループ	
単元名 (時数)	「すてきな社会人になるために」～自分を変える1チャレンジ～ (12時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返り、自分のよさや課題を整理する。 ・実習の振り返りや障害者職業センターの方の話を聞くことを通して、今後の自分の目標を1つ決める。
単元の概要	本単元は、話し合い活動を通して、より素敵な社会人に近づくために今後どのようなことに日常生活で取り組んでいくのかを考え、日々実践できる小さな目標を決めて、実践する経験を積み重ねることで、卒業年度の主体的な進路選択に向け、自分を客観的に評価することやなりたい社会人像に向けて、目標をもって取り組もうとする意欲と実践力を身に付けることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<p>○そのまま使用するのではなく、必要と思う部分を使い、授業を行う側で、ワークシートを作成して授業を行った。まとめの部分でキャリアノートに書き込むようにした。自分の1チャレンジ以外に、友達の参考になるチャレンジを記入することで、次の1チャレンジを考えるとときに参考にできた。</p> <p>○一緒に学習したことのある先輩の職場に見学に行き、職場の人や先輩にインタビューしたり、現場実習の様子や評価票を活用したり、職業ガイダンスで社会人に必要な力を確認したりすることで、自分に必要なこととして1チャレンジを考え、取り組んだ。</p> <p>○学習の後半で、自分の理想とする人(社会人)を確認し、より理想の人に近づけるよう1チャレンジを確認したことで、日常生活場面で自分で決めた1チャレンジ以外にも気を付けて生活している場面が見られた。</p>

指導計画 (第3回全校授業研究会)

小単元名	活動内容	主なねらい	時間
「みんなで取り組むチャレンジ」 ～実習の振り返りを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・実習評価票を基に成果や課題を確認する。 ・みんなで取り組むチャレンジを話し合う。 ・みんなで取り組むチャレンジを基に、自分の1チャレンジを決める。 ・キャリアノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で気を付けたことを基に、みんなで目標を決める。 ・友達からのアドバイスを参考に自分の目標を決める。 	4時間
「素敵な社会人になるために必要なことは何？」 ～職業ガイダンスを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・職業ガイダンスの内容を聞く。 ・障害者職業センターについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業ガイダンスの学習内容を知る。 ・障害者職業センターの役割を知る。 	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・職業ガイダンスを受ける。 ・ガイダンス内容と自分たちの考えと比較する。 ・キャリアノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人になるために身に付けることを確認する。 ・職業ガイダンスを通して、自分たちの考えとの相違に気付く。 	2時間
「自分で決める1チャレンジ みんなで決める1チャレンジ」 ～実習の振り返り、職業ガイダンス、友達のアドバイスをを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の1チャレンジの取組状況を紹介する。 ・同じグループの友達の1チャレンジを話し合う。 ・キャリアノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が取り組む目標の取組状況が分かり、友達に伝える。 ・みんなで取り組む目標の友達の取組状況を知り、認めたり、次のチャレンジに向けての意欲を高めたりする。 ・友達との話し合いを通して、自分が取り組む目標を決める。 	5時間

年 組 (学習グループ) 高等部2年Bグループ	
単元名 (時数)	「卒業後の生活～福祉事業所のことを知ろう～」 (12時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活をイメージし、仕事内容や施設について知る。 ・初めての環境を体験し、感じたことや思いを表す。
単元の概要	本単元では、生徒全員が福祉的就労を希望しており、福祉事業所の職場見学を通して、卒業後の進路選択の情報を知ったり、初めての慣れない場所でも自分から感情を表現したりすることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<p>○担当教師間全員で、ミーティングを行うことで単元目標が明確になり、個々の本時の目標が整理された。学習活動時の役割分担を細かく設定し、焦点を絞って指導したことで、一人一人が自分の役割を理解し活動することができた。</p> <p>○実習や職場見学等で関わりがある福祉事業所を対象とし、生徒の興味・関心に応じた事項を生徒が調べて表を作ったり、礼状を作成したりした。それにより、生徒自身が、興味・関心をもったことや卒業後にしたい仕事や好き嫌いなどが明確になる場面が見られた。</p> <p>○キャリアノートは、指導の手引き書的に使用する他に、キャリアノートが設定している内容を生徒の実態に合わせて作り直したものをキャリアノートに加えた。学習後にノートを保護者に渡し、学習内容や進路について感想や質問を受け付ける形をとった。キャリアノートを媒体として生徒と保護者、学校の三者をつなぐ役割を持たせた。学習の積み重ねや進路先の情報が目に見えて残り、生徒だけでなく保護者のニーズの把握にも繋がった。</p>

年 組 (学習グループ) 高等部3年Aグループ	
単元名 (時数)	「社会人の生活辞典」 (48時間)
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として身に付けておきたい生活技能を確認し、心構えをつくる。 ・将来の生活に見通しをもって、よりよい生活を続けていこうとする気持ちを育てる。
単元の概要	本単元は、卒業後の健康管理、経済生活、余暇、きまりや制度、悩みなどを学習グループの全員で考えたり、調べたり、発表したりしながら、社会人としての必要な知識や能力を高めることをねらう。
授業づくり 授業改善 と 生徒の変容	<p>○小単元の中での話し合いなどで、自分の考えをもち自分の意見を発表することが、授業で各自の役割を果たすことになることとし、よりよい社会生活について意見交換し、学習シートにまとめることができた。</p> <p>○卒業後の夢を語る時間を設定し、語りを聞くルールとして、応援していこうという気持ちやアドバイス、友達の価値観を大切にしている態度を確認しながら実践した。</p> <p>○職業人としての社会生活と実習での生活をリンクさせ、実習において、社会人として身に付けておきたい技能や心構えがどれだけ身に付いてきたのか自分を振り返る時間を設定し、自分の成長を確かめた。</p> <p>○学習に用いた学習シートに記入してきた事柄をキャリアノートにまとめることを通して、知識の深化を図った。</p>



(4) 成果と課題

①成果

- ・今年度は、学部テーマに示す姿を育むために、キャリアノートと地域資源の活用によって、生徒が「将来の生活」と「現在の自分」とを結び付けて考えられるような取組を行った。育てたい力や、学部として目指す生徒像に沿って個々の生徒のねらいを考えるにあたり、学部のキャリア教育の重点を活用した。生徒個々の発達の段階と、学部のキャリア教育の重点である「役割」、「自分らしさ」、「自己実現」の視点とを照らし合わせ、どのような単元設定で育てていくか、構想しながら授業づくりを進めた。学部テーマにある姿を育むためには、生徒が必然性を感じ、自ら学んだこと、経験したことを自らの言葉や思考によって整理することが大切であることを確認し、授業づくりを進めた。
- ・授業づくりでは、生徒の言葉を引き出しながら「働くために必要な力」を具体的に分かるようにすること、生徒が自分で経験した結果分かったことや、自らの言葉で整理した内容をキャリアノートにまとめることの2点を重視した。キャリアノートは、生徒の実態や理解度に合わせ、内容やまとめ方に配慮して活用した。また、教師が社会生活に必要な力を教える方法ではなく、生徒が自分の取組を振り返り、大切なことを理解するまでの過程を重視し、振り返りに話し合い活動や実習でのエピソードを取り入れた。このことは、生徒が「働くために必要な力」をより客観的に捉えることにつながり、自分にとって必要な力に気づき、よりよい行動や必要な情報を選択・決定していく下地につながった。経験を自分の言葉で整理する活動を設定したことで、自分の課題に気づき、課題に向かおうとする変化があった。グループによる話し合いでは、他者の意見を聞き、多様な考え方に触れた上で自分の取組を振り返ることで、自分や他者の長所や課題に対する気づきが促された。このことは、自分に必要な力を具体的、現実的に捉えることや、自分がどうしたいのかを整理し、選択・決定する態度を育むことに有効であった。自分や他者が取り組んだことよさを認め、自分が所属する集団をよりよいものにするための意見を出し合うなど、学習集団としての変容もあり、学部テーマである「目標に向かい、自分から発信し、行動する姿」につながっている。
- ・キャリアノートは、学校での学習の状況を保護者に伝える目的でも活用し、将来の地域生活に必要な力について、生徒、保護者、学校の3者で共有することにも有効であった。

②課題

- ・今年度は、地域資源の活用については、職場見学や実習など、これまで職業科で活用してきた形が中心であった。「働くことの意義の理解」など、1年から3年まで同じ題材を扱っているが、生徒の目標と地域資源活用との関連が不明確で、単元を通してどのような力が付いたのか、変容が見えにくい単元があった。また、学習したことで意識の変化があったが、行動の変化として継続して評価する取組が十分ではなかった。生徒達は実際的な職業生活そのものは体験していないが、実習や作業学習等で他の者と協働する喜びや、自分が役割を果たす意義を感じることができる。そこで、今後、1年生は「地域生活や職業生活について必要な力を知る」、2年生は「個人の力を高め、集団としての力を高める」、3年生は「培ってきた力を個人に返し、進路実現を果たす」など、段階を経て積み上げる目標や題材の意図を明確にして指導計画を作成する。職業科で指導する「働くことの意義の理解」「他の者との協力」「健康管理や余暇の過ごし方」などは、職業科以外の指導の形態で指導している部分も多くある。職業科以外の指導の形態との学習のつながりを重視し、単元計画・評価表、キャリアノートを活用し、育てたい力が積み上げられているか評価する取組を行う。
- ・今年度は、実習を学びの成果を発揮する場ととらえ、振り返りを通して生徒個々の力や学習集団としての学びにつなげてきた。今後は、職業科以外の指導の形態との学習のつながりを重視し、職業科での学びを発揮する場面を設定していく。生徒にどんな力を発揮させたいのかを明確にし、地域での販売会、地域貢献（清掃活動等）、地域の方と一緒に一つのテーマに取り組んだりする活動を通して、地域資源の活用目的、価値を明確にした授業づくりを行う。
- ・今年度は、障害の重度・重複化、発達障害を含む多様な障害に応じた指導を充実する観点から、高等部の職業科の在り方についても検討した。実態や発達の段階に応じ、「家庭での手伝い」等の中心的な題材を決め、自立活動の内容と関連させて体験的・实际的に学べるようにする。

第Ⅲ部 成果と課題

I 成果と課題

1 ライフキャリアの視点を大切にされた教育課程の編成

(1) キャリア教育全体計画の見直しと活用

平成26年度に作成したキャリア教育全体計画の見直しを図ったことで、本校のキャリア教育の方向性と系統性を意識した学部の重点を明確にすることができた。また、ライフキャリアの視点をういた授業実践にも取り組むことができてきている。今後は、個別の指導計画作成時に照らし合わせたり、継続的な授業実践に取り組んだりしていくとともに、今一度本校の教育課程をキャリア教育の視点を基に編成し、日々の学習活動が一人一人のキャリア発達にどのような意味をなしているのかを確認しながら授業実践にあたる必要がある。

(2) 教育課程の評価と改善

教育課程の評価者や日程を明確にし、学校主体の評価に加え、第三者から評価や意見をいただいたことで、複数の視点から教育課程を考え、定期的な評価・改善に結び付けることができた。また、教育課程編成の基礎理解が進むにつれて、職員の教育課程編成（実施、評価、改善）に対する意識の高まりや発言の増加が見られた。一方で、教育課程の編成や評価と改善に関わる組織の役割や評価の視点について整理し、共有していく必要性もある。

2 地域資源を活用した授業づくり

(1) 本人主体の授業づくりと単元構想の重要性の確認

今年度は、指導目標や指導の積み重ね、他の指導との関連性等を意識し単元構想を行った。授業場面では、児童生徒の役割の設定や承認機会、思考場面の保障などを大切に実施した。

地域資源の活用を意識し単元構想や学習指導案の検討を行い、授業実践を積み重ねるごとに、授業の目標や関連性、児童生徒が主体的に思考、判断、表現する場や友達同士のやりとりの場、児童生徒に寄り添う姿勢や発問、学習のまとめや積み重ねの手段等の改善が図られた。そのことで、他者への関心の薄かった児童が相手の話を注意深く聞いたり、相手をもてなすことを意識して学習に取り組んだり、自分の言動に自信のもてず消極的だった生徒が、周囲に認められている実感を得て、自分の力を発揮できたことに喜んだり、卒業後の生活と現状との結び付きが乏しい生徒が友達との話し合い活動を通して、自ら目標をもち活動したりする姿が確認できた。一方で、めあてとまとめの整合性、1単位時間の活動量や導入の工夫と発展的な展開、系統的な指導内容、指導の形態の基礎理解、児童生徒の可能性を掘り起こす視点等については、まだまだ改善の余地がある。

本研究を進める中で、単元構想や授業づくり等の際に、「学習がなぜ、何のために行われているか」など、学習の目的に関する発言が多く聞かれるようになった。今後も学習の目的を明確にしながら、年間通して系統性のある指導目標や指導内容等を意識した単元構想や高等部で用いたキャリアノートのように、学んだことを効果的に残していく工夫も全校体制で実施していきたい。加えて、単元構想の重要性を確認できたことから、年間指導計画作成や単元構想の段階で授業者以外の教師が授業づくりにアドバイスできる体制づくりも進めていきたい。

(2) 年間指導計画の活用

今年度、研究対象の指導の形態と他の指導の形態との関連性が見えることを目的として年間指導計画の様式の改善を図った。結果、授業者は年間指導計画の作成だけで終わることなく単元構想の際に用いたり、学習指導案に明記したり、年間指導計画の評価や改善を定期的に行ったりと活用することができた。授業づくり振り返りシートの集計結果からも授業者が他の指導の形態との関連性を意識しながら授業づくりにあたってきていることが読み取れる。また、様式の改善を図ったことで、年間指導計画の作成意義や必要な項目（目標、指導内容、時数、具体的な評価）を改めて確認することができた。今後も、他の指導の形態との

関連性を意識した授業づくりを進めるとともに、本単元と他の指導の形態が指導目標、指導内容、学習活動など、どの部分で関連があるのか明確にしながら指導にあたっていきたい。

(3) 地域資源活用の有効性の確認

学校教育目標の達成と児童生徒の育てたい力に向けて、地域資源を活用した授業を展開してきた。児童生徒の実態、単元の展開や関連性に応じて地域資源に出向いたり、地域資源を呼び込んだりしたことで、児童生徒の変容に結び付けることができた。そこで、地域資源の活用の有効性を確認する目的で、本校職員対象の研究推進アンケートと校外の教員も交えた研究会での協議を行った。その結果、児童生徒の学習意欲の喚起や学習内容の理解の深化、知識や技能の定着などの変容や児童生徒と触れ合った地域の人材など関係者の意識の変化、家庭の評価の変化への効果が確認できた。教師においては授業改善の視点を得られる機会と捉えることができた。一方で、地域資源の活用は、目的ではなく児童生徒の育てたい姿に向けての方法の一つであることも全職員で共有することができた。地域資源の活用に関しては、指導の形態を限定して検証を進めてきた。本校では、地域資源を活用している学習活動が多々あり、今後も児童生徒の育てたい力を中心に学習のねらいや目的を職員間で共有し、地域資源を活用した学習の質の向上を図っていきたい。

II 研究（一年次）のまとめ

本研究（一年次）では、児童生徒一人一人の社会的自立を目指し、障害の重度・重複化、多様化に対応した教育課程を編成するために、地域資源を活用した授業づくりに着目して研究を進めてきた。その結果、授業づくりにおいて地域資源を活用することで、児童生徒の意欲の喚起をはじめとして、相手を意識した言動が現れてきたり、自分の役割を意識しながら学習に向かうことで、周囲から承認されている実感を得たり、自分の力を発揮できる喜びを感じたり、学習課題や将来の生活に向けて具体的な目標をもち活動したりする姿などが確認できた。これは、各学部で設定したテーマに迫る児童生徒の変容であり、研究仮説に示した自分の役割や自分らしさに気づき、自分のなりたい姿に向かって活動する児童生徒に結び付く変容であると捉えることができる。

授業づくりにおいて、単元や年間、学部など、系統的な指導目標を設定していくこと、地域資源を活用し、外部評価を意図的に活用していくこと、年間を通して他の指導の形態との関連性を明確にしておくことが、単元構想や年間指導計画の改善に結び付き、今年度の定期的な教育課程の評価・改善につながった。

最後に、教育課程の編成、実施、評価、改善は継続的な取組が重要となり、現在、今年度の実践と成果・課題を踏まえて、教育課程改善の視点として「特色ある教育課程」「キャリア教育の充実を図る教育課程」「障害の多様化に対応する教育課程」を挙げ、次年度の教育課程の編成に着手している。今後も、児童生徒の社会的自立につながる力を育めるよう、継続的に教育課程の編成、実施、評価、改善を積み重ねていきたい。

《参考文献》

- 文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
- 文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説総則編（高等部）
- 文部科学省（2011）小学校キャリア教育の手引き（改）
- 文部科学省（2011）中学校キャリア教育の手引き
- 文部科学省（2011）高等学校キャリア教育の手引き
- 秋田県教育委員会（2015）平成27年度学校教育の指針
- 秋田県教育庁南教育事務所（2015）平成27年度南の要覧
- 中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）

資料

学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして努力する児童生徒を育成する

目指す児童生徒像

- ①**明るく** 健康で、心豊かな明るい児童生徒
- ②**仲良く** 協調性に富み、社会性豊かな児童生徒
- ③**元気よく** 自ら意欲をもって働く児童生徒

目指す学校像

- ・安全・安心で、笑顔あふれる学校（専門的な教育の充実）
- ・地域に理解され、信頼される学校（地域との関わりを生かした学習）
- ・県南地区の特別支援教育を推進する学校（センター的機能の充実）

学部の経営目標

	小学部	中学部	高等部
①	・基本的な生活習慣を確立し、進んで体力づくりに取り組もうとする態度を育てる。	・健康で丈夫な体をつくり、明るく元気に生活しようとする態度を育てる。	・自ら健康の保持・増進、体力の向上に努め、たくましく、思いやりの心もち、望ましい人間関係を築こうとする態度を育てる。
②	・友達や身近な人と仲良く学習したり、集団活動したりする気持ちを育てる。	・友達を大切にし、助け合って共に向上しようとする気持ちを育てる。	・高等部生徒としての責任感と自覚をもち、互いに尊重し合い、他者を思いやり、協力して活動する気持ちを育てる。
③	・周囲の物事や課題に、興味・関心をもち、自分の目標に向かってがんばる態度を育てる。	・自分の役割が分かり、活動に一杯取り組もうとする意欲と態度を育てる。	・働くことの意義と、社会生活において果たすべき役割を理解し、実生活の中で実行しようとする意欲と態度を育てる。

横手養護学校 キャリア教育の目標

児童生徒が生涯にわたり、役割を果たしながら生きていくために必要となる資質や能力の習得を通して、**地域**で自分らしく生き、自己実現を果たそうとする意欲や態度、価値観を育む。



学部のキャリア教育の重点

	小学部	中学部	高等部
役割を果たす	・係活動や当番活動、お手伝いなどの役割を果たし、役に立つ喜びを感じる児童の育成。	・学校生活や家庭生活の中で、自分の役割を理解し、継続的に取り組む生徒の育成。	・学校・家庭・地域社会における自他の役割の必要性和意義を理解し、主体的に役割を果たそうとする生徒の育成。
自分らしく生きる	・自分の好きな遊びや活動を見つけて進んで取り組む児童の育成。	・相手との違いに気付き、相手の気持ちを理解しようとする生徒の育成。 ・自分の個性、興味・関心に基づいてよりよく判断しようとする生徒の育成。	・相手のよさを認め、折り合いをつけながら、集団の中で主体性を発揮し、行動しようとする生徒の育成。
自己実現を果たす	・自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げようとする児童の育成。	・自分で決めた目標に向かって、自分で課題を解決しようとする生徒の育成。	・体験から学んだことを生かし、卒業後の生活や仕事について、主体的に選択・決定しようとする生徒の育成。

キャリア教育推進の基盤

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	啓発活動
・発達段階に応じた指導内容の検証 ・キャリア教育の視点を踏まえた授業実践・改善	・個別の指導計画、個別の支援計画に関する個別面談 ・連絡帳での情報共有 ・進路研修会等の開催	・地域の教育資源を活用した教育活動（居住地校交流、学校間交流、地域貢献活動等）	・療育、教育機関、障害者支援施設、理解協力事業所等との情報交換 ・卒業後支援の実施	・学校HPの活用 ・進路指導部通信の発行 ・PTA研修会の実施 ・来てたんせウイークの実施

キャリア教育推進に関わる各分掌部の役割（校内組織づくり）

総務部	・保護者との連携、PTA研修視察等の実施 ・学校報の発行	進路指導部	・進路指導部通信の発行や研修会の実施等による情報提供 ・外部関係機関との連携、情報交換による進路指導・支援
教務部	・教育課程の編成と評価・改善 ・学部・学級経営案の作成 ・個別の指導計画（個別の支援計画）等の作成 ・交流活動の渉外等	保健体育部	・健康、安全（衛生、食育、性指導）に配慮した学習等の計画、実施
研究部	・キャリア教育の視点による授業実践と授業改善 ・授業研究会、職員研修会の計画、実施	図書情報部	・学校ホームページの更新 ・ICT活用の推進
生徒指導部	・児童生徒会の運営や集会の計画、実施 ・運動会、横養祭での係活動の推進	地域支援部	・校内外の教育相談及び支援 ・特別支援教育の教育活動の広報活動 ・特別支援教育に関わる物的及び人的資源の提供

授業づくり振り返りシート

資料2

学級等		指導者名	
-----	--	------	--

評価基準：4（よい）－3（概ねよい）－2（やや不十分）－1（不十分）

	評価内容	評価
	(1)本校の教育目標や教育の目指す方向性を理解し、指導・支援に当たっている。	4-3-2-1
授業構想	(1)児童生徒の興味・関心、認知特性、社会性スキル、学習経験等を多面的に把握している。 (2)学校教育目標等や児童生徒（保護者）・教師の願いや思いを踏まえ、単元（題材）で育みたい力と目指したい児童生徒の姿を具体化している。	4-3-2-1 4-3-2-1
単元構想	(1)児童生徒にとって、分かりやすい流れやゴール（クライマックス）を明確にしている。 (2)他の単元や指導の形態との関連を明確にしている。	4-3-2-1 4-3-2-1
支援方法	(1)空間の構造化（動線、配置、掲示物等）に配慮している。 (2)時間の構造化（開始・終了の時間、活動の順番が見える）に配慮している。 (3)活動の構造化（単元計画や学習の流れが見える）に配慮している。 (4)方法の構造化（活動の手順等）に配慮している。	4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1
基本姿勢	(1)学習ルールが徹底されている。 (2)児童生徒に伝わりやすい話し方をしている。	4-3-2-1 4-3-2-1
学習活動	(1)学習のめあてが提示されている（児童生徒が学習のめあてを理解している）。 (2)導入の工夫がされている（短時間で必要な情報が伝えられている等）。 (3)児童生徒のめあてや教師のねらいを達成するための学習が展開されている。 (4)児童生徒同士のやりとりの場が設定されている。 (5)まとめの時間が確保されており、児童生徒が本時の学びを実感できる工夫がある。 (6)T1だけが学習を進めることがないように、役割分担が明確で効果的に機能している。	4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1 4-3-2-1
成果	(1)単元の中で、児童生徒の変容を見取ることができた。	4-3-2-1
自由記述	【今月の授業づくりを振り返って】	

平成28年度 教育課程（案）について

1 教育課程編成の方針

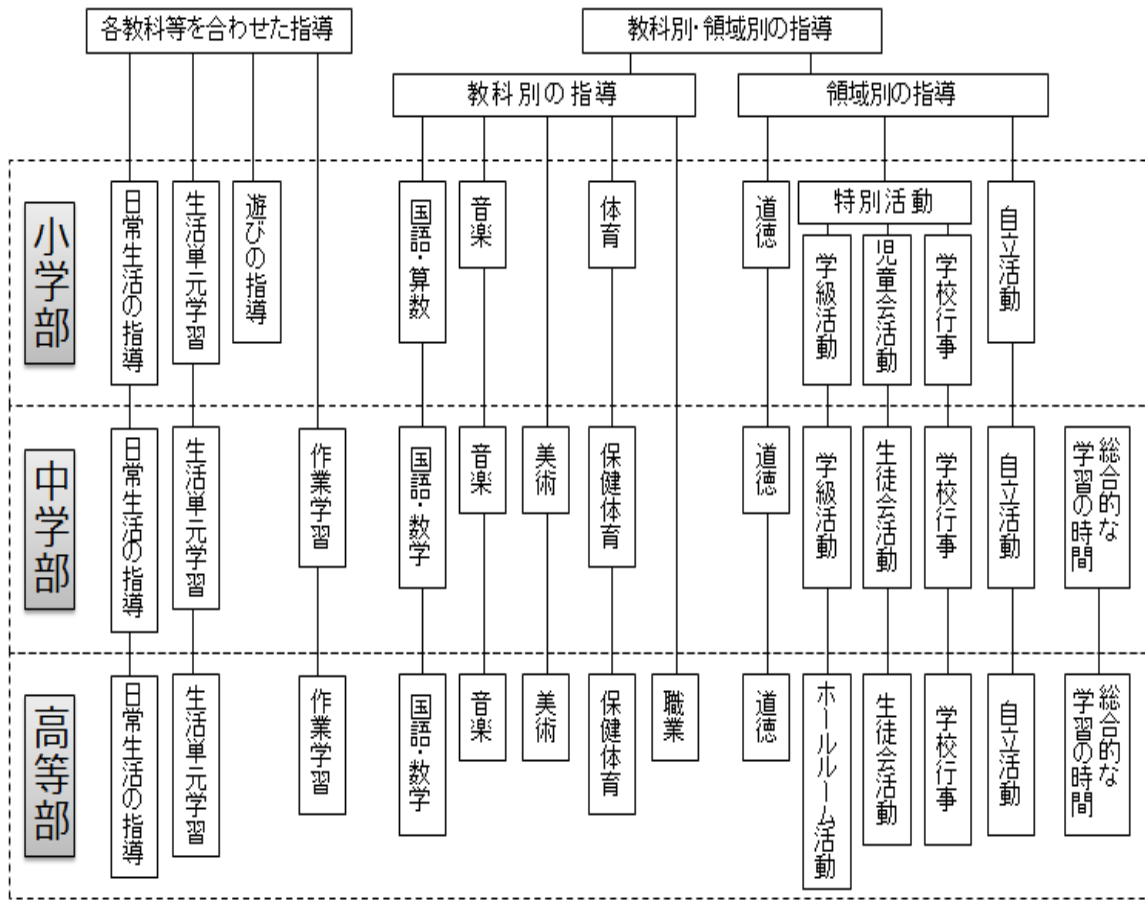
学校教育目標「一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して努力する児童生徒の育成」を具現化するために、法令及び学習指導要領等に基づき、次のことを基本として編成する。

- (1) ライフキャリアの視点（「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」）を基に、発達の段階や障害の状態、特性等に応じて一人一人のキャリア発達を促す教育課程の編成に努める。
- (2) 本校の特色の一つである本や読書に親しむ児童生徒の姿を基盤とした学習活動を通して、学年や学部の枠組みを超えた取組を積み重ね、「言語活動の充実」をめざす。
- (3) 児童生徒の教育的ニーズや障害の多様化を踏まえ、一人一人の生活の基盤となる学習内容の充実を図る。
- (4) 地域の中で生活するための基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、自分の役割を果たしながらよりよく生きようとする意欲と態度を喚起できるように、地域資源を活用した教育活動を展開する。

2 教育課程編成・実施上の重点

- (1) ライフキャリアの視点を重視し、キャリア教育全体計画を基にした年間指導計画、学級経営案、個別の指導計画を作成するなど、小学部・中学部・高等部の一貫性がある教育課程を編成する。
- (2) 本好きな児童生徒の育成のために、本を介した学習活動、言語活動を意識した学習活動、読書環境等の充実を図る。
- (3) 肢体不自由や発達障害等を併せ有する児童生徒に対する自立活動の充実（指導内容・方法・時数、評価の在り方等）を図り、心身の調和的発達の基盤を形成する。
- (4) 児童生徒同士の関わりを重視した活動や地域資源を活用した活動を積極的に取り入れ、社会性やコミュニケーション能力の育成を図る。

3 教育課程の構造図



4 指導計画作成の留意点

- (1) 個別の支援計画、個別の指導計画、年間指導計画を活用しながら保護者、関係機関、地域との連携、共通理解を図り、生徒個々のニーズに応じた教育が計画、実施、評価、改善の過程の中で意図的、計画的に行われるよう努める。
- (2) 生徒個々の教育的ニーズにこたえ学習課題の解決を目指し、指導の形態の特性を生かした指導計画、方法の工夫を図る。
- (3) 各教科・領域の関連や補完関係を持たせ、教育活動全体を通した指導計画の作成に努める。
- (4) 地域との接点や交流活動及び地域資源を活用した体験的、問題解決的な学習活動を積極的に取り入れ、児童生徒に必要な社会性や対人関係の育成を図ると共に、自己肯定感や有用感をもたせる指導計画、方法の工夫を図る。
- (5) 自立活動と道徳の指導については全教育活動を通して指導するものとし、教育活動全体を通して調和のとれた計画となるように留意する。
- (6) 安全に関する指導、体力及び心身の健康保持増進に関する指導、食育についての指導を体育（保健体育）はもとより、日常生活の指導、生活単元学習、特別活動等において、児童生徒の発達の段階に応じて計画的に行う。

5 指導の形態ごとの目標及び指導の実際

学部	指導の形態	目標・内容	指導の実際（学習形態等）
小学部	日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の流れに沿った日常生活の基本的な習慣を身に付ける。 ・体力づくりを通して、進んで体を動かす習慣を身に付ける。 ・集団行動に必要な簡単なルールを守り、仲間を認め合う気持ちを育てる。 	学級、近隣学年合同、学部合同での学習 【関連する教科・領域】 生活、体育、特別活動
	遊びの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わりながら、自分からいろいろな遊びをしようとする気持ちを育てる。 	学級、近隣学年合同、学部合同での学習 【関連する教科・領域】 生活、音楽、体育、図工、国語、算数、
	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の好きな活動や興味のある活動を中心とした単元に向かう中で、目標や見通しをもって積極的に活動に取り組む姿を育む。 	学級での学習 【関連する教科・領域】 生活、社会、理科、家庭、体育、国語、算数 特別活動
	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に必要な国語を理解し、伝え合う力と表現する力を育てる。 	同学年の中でグループに分かれての学習 ＊実態に応じて近隣学年とのグルーピング
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な数量や図形に関する初歩的なことを理解しそれを生活に生かしていくこうとする態度を育てる。 	同学年の中でグループに分かれての学習 ＊実態に応じて近隣学年とのグルーピング
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する興味・関心を高め、音楽の楽しさを味わうようにする。 	低学年、高学年に分かれての学習
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基本な運動やいろいろな運動をする経験を通して、体を動かす喜びを感じ楽しく過ごそうとする態度を育てる。 	学部合同での学習
	道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできる事は自分でやり、集団の約束や決まりを守り、相手のことを思いやる態度を育てる。 	教育活動全体を通しての学習
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学部、他学部との活動の中で自分の役割を果たし、仲良く助け合ったりする態度を育てる。 	学年、学部合同での学習 ＊委員会活動は、中学部と合同縦割りグループでの学習 ＊全校集会は、全校縦割りグループでの学習
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間関係の形成」「身体の動き」「コミュニケーション」等に必要な基礎的な力を身に付けようとする態度を育てる。 	教育活動全体の中での学習 ＊児童の実態に応じて個別の時間を設定した学習	
中学部	日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や生活年齢にふさわしい社会性（場に応じたあいさつや身だしなみ、応答の仕方など）の定着を図る。 ・基礎的な体力づくりを行い、一日の学習への意欲付けを図る。 	学級での学習 体力作りは、学部合同での学習 【関連する教科・領域】 国語、数学、保健体育、社会
	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な課題を解決する力と社会生活に必要な基礎的な知識や技能を養う。 	単元に応じて学部、学年、学級での学習 【関連する教科・領域】 国語、数学、社会、理科、道徳、総合的な学習の時間
	作業学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活する力」「働く力」となる知識・技能・態度を育てる。 ・日々の学習の他に高等部の作業見学・体験、作業製品販売等を実施し、働く喜びや仕事に対する関心を高める。 	学部縦割りグループでの学習 ＊3班編成 【関連する教科・領域】 国語、数学、社会、理科、職業・家庭
	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語の理解を深め、伝え合う力と表現力を伸ばし、生活する力を高める。 	同学年の中でグループに分かれての学習
	数学	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な数量や図形に関する初歩的な力を高め、生活に生かしていく力と態度を育てる。 	同学年の中でグループに分かれての学習
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽への興味・関心を高め、音楽を生活の中で楽しむ態度や習慣を育てる。 	学部合同での学習
	美術	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や造形物に親しみ、表現する喜びや美しさを感じ取る豊かな感性を育む。 	学年での学習
	保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わい、自ら運動に挑戦しようとする意欲や態度を育てる。体力づくりに努める。 ・自分の体に関心をもち、健康で安全な生活を送るための力を育てる。 	学部合同での学習 保健学習は、課題別グループに分かれての学習
	道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣を身に付けると共に責任を 	教育活動全体を通しての学習

		<ul style="list-style-type: none"> もって取り組む態度を育てる。 ・集団や社会との関わりの中で思いやりの心を育てる。 	
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や異年齢集団等で、決められた役割を果たしたり、協力し合ったりする態度を育てる。 	学部合同での学習 *委員会活動は、小学部高学年合同縦割りグループでの学習 *全校集会は、全校縦割りグループでの学習
	自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「情緒の安定」「認知特性に応じたコミュニケーション手段の活用」等、個々の生徒の中核となる課題や問題性をとらえ、改善を図る。 	教育活動全体の中での学習 *児童の実態に応じて個別の時間を設定した学習
	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の在り方や進路等について考える力を育てる。 ・これまで身につけた知識や技能をもとに、主体的に活動に取り組む力を育む。 	単元に応じて、学級、学年、学部合同での学習
高 等 部	日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な生活習慣、身辺処理の仕方などの定着を図る。 ・集団の中でマナーやきまりを守ったり、主体的に役割を果たしたりする力を高める。 ・健康の保持・増進を図る。 	学級での学習 体力作りは、学部合同での学習 【関連する教科・領域】 生活、特別活動、保健体育
	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習を通して、自ら考え、行動する態度や、身に付けた知識・技能を主体的に日常生活に生かしていこうとする態度、問題解決する力を育成する。 	単元に応じて学部、学年、学級での学習 【関連する教科・領域】 国語、数学、社会、理科、職業、家庭、学国語、情報、道徳、総合的な学習の時間
	作業学習	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意欲を培い、職業生活や社会生活に必要な知識・技能・態度を身に付ける。 ・販売活動を通して、製品作りへの意欲や地域社会の一員としての自覚を促す。 ・地域との連携を通して、より実践的な職業経験を重ね、作業学習で培った働く力を発揮する。 	学部縦割りグループでの学習 *7班編成 【関連する教科・領域】 国語、数学、社会、理科、職業、家庭、情報、道徳
	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を充実させ、円滑な人間関係を形成するために必要な国語の理解を高め、適切に活用する力を高める。 	学年や学級の中で習熟度別グループに分かれての学習
	数学	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的に数量を扱う経験を広げ、数量を活用する力を高める。 	学年や学級の中で習熟度別グループに分かれての学習
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分野の音楽に親しみ、自分の好きな音楽を趣味や余暇に生かしていけるようにする。 	学部の中で課題別グループに分かれての学習
	美術	<ul style="list-style-type: none"> ・表現する喜びを感じたり、地域の美術館の利用を通して表現や鑑賞の能力を高めたりする。 	学年合同での学習
	職業	<ul style="list-style-type: none"> ・職業生活や社会生活において、必要な一般的な知識・技能及び態度を身に付ける。 	学年合同、課題別グループに分かれての学習
	保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・社会自立に必要な体力を育成し、健康の増進と体力の向上を目指す。 ・生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解し、実際の生活に生かす力を育てる。 ・家庭と連携しながら、個々に応じた性に関する指導を行う。 	学部合同で学習
	道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を通して、主体的に判断し、行動する態度を育てる。 ・他者と協調し、望ましい人間関係を築こうとする態度を育てる。 	教育活動全体を通しての学習
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会の一員としてよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 	学部合同、学部縦割りグループでの学習 *全校集会は、全校縦割りグループでの学習
	自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業や生活を見通して、心理的な安定や人間関係の形成を図ったり、環境の把握や身体の動き、コミュニケーションの力を高めたりする。 	教育活動全体の中での学習 *児童の実態に応じて個別の時間を設定した学習
	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、自ら学び、考える力を身に付け、他者と関わりながら、実生活の様々な問題を解決する態度や力を育てる。 	単元に応じて、学級、学年、学部合同での学習

6 学部・学年別週時数

指導の形態 学部・学年		各教科等を合わせた指導				教科別・領域別の指導							総合的な学習の時間	計
		日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習	国語	算数(数学)	音楽	美術	体育(保健体育)	職業	特別活動		
小学部	1年	11	4	2		5	1		1		1	0		25
	2年	11	4	3		2.5	1		1		1	2.5		26
	3年	11	4	4		2.5	1		1		1	2.5		27
	4年A	10	4	6		5	1		1		1	0		28
	4年B	10	4	6		2.5	1		1		1	2.5		28
	4年C	7.5	4	6		0	1		0		1	8.5		28
	5年A	10	3	7		5	1		1		1	0		28
	5年B	10	3	7		2.5	1		1		1	2.5		28
	5年C	7.5	3	7		4	1		0		1	4.5		28
	5年D	7.5	3	7		2.5	1		1		1	5		28
	5年E	7.5	3	7		0	1		0		1	8.5		28
	6年A	10	3	7		5	1		1		1	0		28
	6年B	10	3	7		3	1		1		1	2		28
	訪問	2	0	0		0	0		0		0	2		4
中学部	1年A	6		5	5	5	2	2	2		1	0	1	29
	1年B	6		5	5	3	2	2	2		1	2	1	29
	2年A	6		5	5	5	2	2	2		1	0	1	29
	2年B	6		5	5	3	2	2	2		1	2	1	29
	2年C	5		3	3	3	1	1	1		1	10	1	29
	3年A	6		5	5	5	2	2	2		1	0	1	29
	3年B	5		5	3	2	2	1	0		1	9	1	29
	3年C	5		5	2	0	2	2	0		1	11	1	29
3年D	2		5	3	3	1	1	1		1	11	1	29	
高等部	1年A	6		2	9	3	1	2	2	3	1	0	1	30
	1年B	6		5	9	2	1	2	2	0	1	1	1	30
	2年A	6		2	9	3	1	2	2	3	1	0	1	30
	2年B	6		5	9	3	1	2	2	0	1	0	1	30
	2年C	6		2	5	3	1	2	2	3	1	4	1	30
	2年D	6		5	8	2	1	2	2	0	1	2	1	30
	3年A	6		2	9	3	1	2	2	3	1	0	1	30
	3年B	6		5	9	3	1	2	2	0	1	0	1	30
	3年C	6		5	9	2	1	2	2	0	1	1	1	30
	3年D	6		5	4	0	1	2	0	0	1	10	1	30
訪問	1		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	

7 校時表

日程	小学部	中学部	高等部
登校	～ 8:40	～ 8:40	～ 8:40
1校時	8:50 ～ 9:35	8:50 ～ 9:20	8:45 ～ 9:15
2校時	9:35 ～ 10:20	9:20 ～ 10:10 10:15 ～ 10:25 (RUNランタイム)	9:20 ～ 10:10
3校時	10:30 ～ 10:55	10:30 ～ 11:20	10:20 ～ 11:10
4校時	11:05 ～ 11:50 11:50 ～ 12:00	11:20 ～ 12:10	11:10 ～ 12:00
給食・昼休み	12:00 ～ 13:10	12:10 ～ 13:10	12:00 ～ 12:50
5校時	13:10 ～ 13:55	13:10 ～ 14:00	12:50 ～ 13:40
6校時	13:55 ～ 14:40	14:00 ～ 14:50	13:40 ～ 14:30
帰りの会・SHR	14:40 ～ 15:00	14:50 ～ 15:00	14:30 ～ 15:00
児童生徒下校	15:00 ～	15:00 ～	15:00 ～

8 めざす児童・生徒像と学部経営目標

	【健康・明朗】 明るく 健康で、心豊かな明るい 児童生徒	【協調性・社会性】 仲良く 協調性に富み、社会性豊かな 児童生徒	【意欲・勤労】 元気よく 自ら意欲をもって働く 児童生徒
小学部	・基本的な生活習慣を確立し、進んで体力づくりに取り組もうとする態度を育てる。	・友達や身近な人と仲良く学習したり、集団活動したりする気持ちを育てる。	・周囲の物事や課題に、興味・関心をもち、自分の目標に向かってがんばる態度を育てる。
中学部	・健康で丈夫な体をつくり、明るく元気に生活しようとする態度を育てる。	・友達を大切にし、助け合っ て共に向上しようとする気 持ちを育てる。	・自分の役割が分かり、活動 に力一杯取り組もうとする 意欲と態度を育てる。
高等部	・自ら健康の保持・増進、体 力の向上に努め、たくましく、 思いやりの心をもち、望ましい 人間関係を築こうとする態度 を育てる。	・高等部生徒としての責任感 と自覚をもち、互いに尊重し 合い、他者を思いやり、協力 して活動する気持ちを育てる。	・働くことの意義と、社会生 活において果たすべき役割を 理解し、実生活の中で実行し ようとする意欲と態度を育て る。

9 重点事項

小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の障害の特性や発達段階に応じた教育環境の整備ときめ細やかな対応 ・個別の指導（支援）計画に基づいた学習のねらいを明確にした授業づくり ・個々の課題の共有化と外部専門家等との連携による指導の充実（自立活動） ・地域と関わりがもてる体験的な学習の展開（校外での活動、交流活動等）と地域で役立つ喜びを体験できる活動の設定
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心に学習活動に取り組める教育環境の整備 ・他学部、家庭、外部機関との情報交換と指導方針の共通理解など、連携を密にした指導の展開 ・個々の教育的ニーズや障害特性に応じた適切な教育計画の作成と指導内容の実践 ・授業改善と生徒のよりよい変容を目指し、学部研究との関連づけや同僚性の発揮
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心な教育環境の整備と職員の情報共有と関係機関との連携を基にしたきめ細やかな指導の実践 ・集団生活におけるよりよい人間関係構築に向けた日常的な生徒指導の実践 ・地域に根ざしたキャリア教育の推進と個別の支援（指導）計画を基に個々の進路希望に沿った進路指導の実践

10 週時程表

〈小学部〉（1～3年）

校時	曜日 時間	月			火			水			木			金		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1	8:50 9:35	朝の活動（日常生活の指導）														
2	9:35 10:20	国語・算数 / 自立活動														
3	10:30 10:55	なかよしタイム(日常生活の指導)						遊びの指導 (学部合同)			なかよしタイム (日常生活の指導) / 自立活動			特別活動 スマイル集会 学部集会 学級活動 日常生活の指導 / 自立活動		
4	11:05 (11:25) 11:50	音楽 (低学年合同)			体育/ 自立活動 (低学年合同)			日常生活の指導/ 自立活動			生活単元学習					
	11:50 12:00	日常生活の指導														
	12:00 13:10	給食・歯磨き・昼休み														
5	13:10 13:55	遊びの指導			遊びの指導			生活単元学習			遊びの指導			帰りの活動 (日指)	生単 元 学習	遊びの 指導
6	13:55 14:40	帰りの活動 (日常生活の指導)						帰りの活動 (日常生活の指導)						下校 13:30	帰りの活動 (日常生活の指導)	
	14:40 15:00	下校14:15						下校14:15							下校 14:15	

下校15:00

〈小学部〉（4～6年）

校時	曜日 時間	月			火			水			木			金		
		4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6
1	8:50 9:35	朝の活動（日常生活の指導）														
2	9:35 10:20	国語・算数 / 自立活動														
3	10:30 10:55	なかよしタイム(日常生活の指導) / 自立活動						遊びの指導 (学部合同)			なかよしタイム (日常生活の指導) / 自立活動			特別活動 スマイル集会 学部集会 学級活動 日常生活の指導 / 自立活動		
4	11:05 (11:25) 11:50	生活 単元 学習	遊びの 指導		音楽 (高学年合同)			日常生活の指導/ 自立活動			体育/ 自立活動 (高学年合同)					
	12:00 13:10	給食・歯磨き・昼休み														
5	13:10 13:55	生活単元学習			遊び の 指導	生活単元 学習		生活単元学習			生活単元学習			遊びの指導		
6	13:55 14:40	帰りの活動 (日常生活の指導)						帰りの活動 (日常生活の指導)						下校 13:30	帰りの活動 (日常生活の指導)	
	14:40 15:00	下校15:00						下校15:00							下校 14:15	

〈中学部〉

校時	曜日 学年 時間	月			火			水			木			金		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1	8:50 9:20	朝の活動（日常生活の指導）														
2	9:20 10:10	国語・ 数学	自立 国数	自立活動	国語・ 数学	自立 国数	自立活動	国語・ 数学	自立 国数	自立活動	国語・ 数学	自立 国数	自立活動	国語・ 数学	自立 国数	自立活動
	10:15 10:25	軽運動（日常生活の指導）／自立活動														
3	10:30 11:20	生活単元学習 ／ 自立活動			生活単元学習 ／ 自立活動			作業学習 ／ 自立活動			作業学習 ／ 自立活動			特別活動 スマイル集会 学部集会 委員会活動		
4	11:20 12:10													生活単元学習 ／ 自立活動		
	12:10 13:10	給食・歯磨き・昼休み														
5	13:10 14:00	総合的な学習 の時間			美術 ／ 自立活動			作業学習 ／ 自立活動			保健体育 ／ 自立活動			音楽 ／ 自立活動		
6	14:00 14:50	日常生活の指導 ／自立活動									帰りの活動 (日常生活の指導)			日常生活の指導 ／自立活動		
	14:50 15:00	帰りの活動 (日常生活の指導)						下校14:15			帰りの活動 (日常生活の指導／自立活動)					

下校15:00

下校15:00

*月(5校時)総合的な学習の時間と水(5校時)作業学習は、期間を設定して行う。

〈高等部〉

校時	曜日 時間	月			火			水			木			金		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1	8:45 9:15	清掃、係活動、ショートホームルーム日常生活の指導)														
2	9:20 10:10	国語・数学 ／自立活動						自立活動			国語・数学 ／自立活動					
3	10:20 11:10	生活単元学習			作業学習 ／ 自立活動			職業 ／ 自立活動			作業学習 ／ 自立活動			特別活動 スマイル集会 学部集会 委員会活動		
4	11:10 12:00													職業 ／ 生活単元学習		
	12:00 12:50	給食・歯磨き・昼休み														
5	12:50 13:40	美術			作業学習			総合的な学習 の時間			作業学習			保健体育 ／ 自立活動		
6	13:40 14:30							清掃・ショート ホームルーム (日常生活の指導)								
	14:30 15:00							清掃・ショートホームルーム (日常生活の指導)			下校14:15					
下校15:00																
下校15:00																

*総合的な学習の時間は、期間を設定して行う。

1.1 教育課程の評価と改善

学校活動の全体的視野からその成果と課題を明らかにし改善を図るために、計画・実践・評価・改善の過程を大切に、教育課程の評価と改善を図る。

(1) 教育課程の評価の観点

- ①学校教育目標、教育方針、経営方針及び重点、キャリア教育全体計画等
- ②指導目標、指導内容、指導方法、指導時期、日課の組み方等
- ③学力の到達度、道徳性や社会性等の人間の観点からの成果と課題
- ④施設・設備等の物的諸条件及び保護者や地域の教育的関心等の環境的諸特性

(2) 教育課程の評価の方法

- ・教職員アンケートに基づいた各学部における定期評価（各学期）
- ・各学部定期評価結果に基づいた、教育課程検討委員会による総合評価及び改善の方向性などの提案
- ・「県南3校教育課程等協議会」での意見交換
- ・保護者アンケートの結果や学校評議員等からの助言

(3) 教育課程の改善

評価結果に基づき問題の所在や背景を明らかにし、改善の方向性や具体的な方策の検討を行い、即時的及び定期的に教育課程の改善を図る。また、改善の方向性や具体的な方策の検討結果は、次年度の教育課程編成にも生かす。

あ と が き

教 頭 阿 部 聡

障害の重度・重複化、多様化に応じ本校の特色を生かした教育課程の編成と授業改善の実践研究を行うことを目的として、本校は今年度から、文部科学省から委託され、「特別支援教育に関する実践研究充実事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」に取り組んできました。その取組を「研究紀要第36集」にまとめることができました。

児童生徒の「自立と社会参加」を目指して私たちは日々の教育活動に当たっています。どのような姿を自立ととらえるのか、どのような形で社会参加ができるのか。一人一人に自分なりの自立、社会参加ができる力を育むことを考えたとき、本校の研究主題「ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成～地域資源を活用した授業づくりを通して～」に沿って研究を進めていくことは、私たちのめざしている児童生徒の姿にたどり着く一つの方法だと思います。

本研究の特色の一つは、県南地区の特別支援学校と連携して研究を推進していくことです。「県南3校特別支援学校教育課程等協議会」を年間3回開催し、各校の教育課程及び研究推進に関して協議して、本校の研究推進について貴重な御意見をいただきました。大曲養護学校、稲川養護学校の教務主任、研究主任、教育専門監の先生方には、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

また、もう一つの特色は、教育課程の編成と授業改善を並行して研究していくことです。上記「県南3校特別支援学校教育課程等協議会」や各種授業研究会で得たことを、学部研究会、教育課程検討委員会で協議し、教育課程の編成や授業改善に具体的につなげるようにしてきました。

本校の研究の成果と課題については紀要に記載されているとおりですが、児童生徒の「自立と社会参加」は一朝一夕にできるものではありません。ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成、それに沿っての授業実践、実践した授業の評価と改善、教育課程の見直し、というサイクルを繰り返しながら、私たちの目指している児童生徒の姿にたどり着きたいと思います。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、県教育庁特別支援教育課、上記県南2校の特別支援学校の先生方をはじめ、多くの関係者の皆様方から御指導、御助言をいただきました。改めてお礼を申し上げるとともに、今後とも、引き続き本校に御支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

研究に携わった職員（平成27年度）

校長 五十嵐 昌 司 教 頭 阿 部 聡 教 頭 板 井 互
事務長 日 野 勉 教育専門監 佐々木 義 範

（小学部）

永 澤 淳 子
雲 雀 登喜子
井 上 裕 子
照 井 聖 子
赤 川 由 美
大 川 浩 平
森 愛 子
岩 井 小百合
佐 藤 真紀子
佐々木 貴 子
田 口 侑以子
岩 村 美 緒
佐 藤 撰
佐 藤 真一郎
小 形 美穂子
菅 原 美奈子

（中学部）

中 野 由利子
高 井 俊 博
大 庭 せい子
柿 崎 り か
鎌 田 次 美
鈴 木 崇
鈴 木 朋 子
渡 邊 藤 子
阿 部 潤 子
青 木 真 一
近 亜希子
鈴 木 颯
今 野 文 龍
福 地 恵
阿 部 隆 文
大 西 幸
高 橋 牧 子
藤 原 梢
赤 穂 徹

（高等部）

高 橋 和 恵
工 藤 恵喜夫
小 椋 トモ子
川 崎 亜希子
時 田 航
能登谷 明 子
山 田 育 宏
小 玉 智 彦
佐 藤 深 雪
遠 山 成 子
小 林 紀 子
高 澤 衣久子
後 松 慎太郎（研究主任）
菅 優 子
金 澤 めぐみ
杳 澤 妙 子
佐 藤 剛 大
櫻 田 菜 保
萩 庭 悠
高 橋 誠
洪 谷 康 之
浅 利 政 子
古 関 綾 子
守 屋 充 敬
赤 坂 千 春
佐 藤 香菜子
大 山 南視子
鹿子澤 奨
松 岡 一
谷 藤 イツ子

発行年月日 平成28年3月18日
発行所 秋田県立横手養護学校
〒013-0064 横手市赤坂字仁坂105-1
TEL 0182-33-4166 FAX 0182-33-4266（小・中学部）
TEL 0182-33-4167 FAX 0182-33-4277（高等部）
Email: yokoyo@akita-pref.ed.jp
<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp>